大阪医科大学学報

第92号
インターネット版
平成24年５月

クサイチゴ

◆目　次◆

看護専門学校閉校によせて…… 2
平成24年度入学宣誓式…… 4
病院長就任挨拶…… 7
定年退職のご挨拶…… 8
受賞等について…… 10
学位記授与式…… 11
平成24年度科学研究費助成事業交付内定…… 14
研究助成金等について…… 17
平成24年度事業計画と予算の概要…… 18
卒後臨床研修センター…… 29
看護学部…… 30
病院看護部…… 31
中山国際医学医療交流センター…… 32
学内行事…… 38
市民公開講座…… 42
入学試験・国家試験状況・行事日程…… 43
寄付金報告…… 45
主要会議報告…… 47
大学安全対策室…… 52
医療安全対策室…… 53
感染対策室…… 56
保健管理室からのお知らせ…… 57
組織細胞化学講習会…… 60
平成24年度LDセンター活動予定 …… 61
歴史資料館…… 62
俳句…… 63

大阪医科大学附属看護専門学校閉校によせて

大阪医科大学附属看護専門学校は、平成24年３月31日をもって閉校いたしました。

本校は、昭和４年大阪高等医学専門学校附属看護婦学校として開設され、今日まで83年の長きにわたり、4,141名の有能な卒業生を社会に送り出してきました。その間、大阪医科大学附属病院とその前身である大阪高等医学専門学校附属病院（三島病院）で臨床実習を行い、最先端の医学・医療を学ぶ環境に恵まれ、高度医療を受けられる患者様への看護を経験することができました。また、60余年の全寮制生活では、学業のみならず人間としての豊かさを身に付けるための教育を行い、医療従事者として社会人として必要な躾やマナーなど多くの学びの場を与えました。その卒業生の多くは保健・医療・福祉の看護実践活動ならびに教育の各分野で活躍し大きな役割を果たしています。

本校はこれまで人を育てる豊かな土壌の醸成に邁進してまいりました。平成22年４月大阪医科大学看護学部が開設され、ここ北摂の地にしっかり根づいた看護のこころ、人が人を育てる環境づくりは看護学部へ引き継がれさらに発展し、未来に向かって飛躍していくものであると確信しております。

校舎に掲げられていた校章は、歴史資料館にて保管･展示されます。

昨今の社会・医療は数々の問題を抱え、看護に求められることも多岐に亘り、看護職者の自律が求められています。本校で看護の原点を学んだ卒業生の皆様が医療の発展のため患者様のために職務に精進し今後さらに活躍されることを心から願っています。

最後になりましたが、これまで本校の運営に携わって下さいました多くの方々、ご指導・ご支援を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。

元学校長　神谷　美佐子

閉校記念式典・懇親会

平成24年３月24日（土）

春の足音が少しずつ聞こえるようになった大安吉日のこの日、濱田高槻市長始め多くの学内外からの来賓等をお迎えし、本校最後の卒業生を含む220余名が臨席のもと、大阪医科大学附属看護専門学校、閉校記念式典・懇親会が開催されました。

第一部閉校記念式典では、主催者側から植木理事長、神谷学校長の挨拶があり、続いてご来賓を代表して、濱田高槻市長と社団法人大阪府看護協会豊田会長からお言葉を頂戴いたしました。

第二部懇親会は、田中和子様・田中陽子様・久山薫様のピアノ・バイオリン・チェロの三重奏に魅了されながらのオープニングとなりました。奥本前高槻市長による乾杯のご発声の後に、お食事をいただきながらの和やかな会が開かれました。竹中学長や花房病院担当理事、小野看護部長からは看護専門学校にまつわる思い出のお言葉を頂戴し、懇親会を盛り上げていただきました。引き続き、看護専門学校の歴史的変遷を『83年の航跡』としてスライドショーで紹介しました。これは、閉校記念誌をもとに作成したもので、タイトルは植木理事長に命名いただきました。スライドショーでは、重厚なBGMと共に昭和初期から戦前・戦中・戦後の混乱期を経て平成への歴史的変遷の中で、常に社会のニーズに応えてきた本校の教育課程の変遷や時代と共に変わるものと変わらない看護の心が紹介され、人々に感銘を与えていました。その後、卒業生たち全員が舞台に上がり「栄光の架け橋」を合唱しました。最後に、前学校長である佐野常務理事に閉会挨拶をいただき名残惜しさを残しながらの閉会となりました。

80余年の歴史を閉じるにふさわしい閉校記念式典・懇親会が開催できましたのも、礒田事務局長・門田総務部長始め、法人や多くの皆様のご理解とご協力の賜物であると厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、本校を巣立っていかれた多くの卒業生の方々が本校の卒業生であることの誇りを胸に、保健・医療・福祉の各分野で更なるご活躍をされますことを祈念いたします。（守本　俊子）

平成24年度入学宣誓式

医　学　部・看 護 学 部

日　時：　平成24年４月４日（水）14：00～
場　所：　高槻現代劇場　大ホール（市民会館）
入学生：　医学部医学科　114名　　看護学部看護学科　88名

■平成24年度　医学部・看護学部　入学式　式辞

学長　**竹中　洋**

大阪医科大学医学部第67期生並びに看護学部３期生の皆さんご入学おめでとうございます。また、御出席頂いているご家族の皆様にも御祝い申し上げます。

本日、入学式にご参列頂いている関西医科大学山下敏夫学長先生始め、ご来賓並びに本学教職員各位には心より御礼申し上げます。

さて、本年は大阪医科大学が創立されて85年目を迎えます。また、看護学部は３年生までの在学生が完成年度を控え、試行錯誤の中に成果を求めていこうとしています。

皆様は、高槻市大学町のキャンパスで、本学が求めている世界に通用する高度な医療技術と温かい人間の心を持った医療人を育成する目的をよく理解し受験され、入学を許されました。共に目的を持ち切磋琢磨する学友であります。

ご承知の様に医療の発達は、医学の分野における専門性の確立と高度技術の開発が根底にあります。またこれらの現象は、生命活動の研究である「基礎医学」或はライフサイエンスの裏付けによるもので、その展開の早さと情報量の多さは目を見張るものがあり、医学部の研究者も一日として探求を怠ることは出来ない状況です。

具体的には、医学生が学ばなければならない学問体系は、近代医学の萌芽であった人体解剖から、果てしなく先端科学に近づくものまで膨大な知識量となっています。その為には勉強を続ける目標と意欲を絶えず持たなければなりません。一方、医師には、病める人と接し、情報を得、知識や技術を間違いなく使うという、高い職業倫理と社会的役割分担を求められています。医学部に入学された皆さんは、医師が本質的に持っているこの重要な責務についてここで再度確認を頂きたいと思います。知育以外に徳育や体育も医学部教育に求められています。

看護学も、医学から独立した学問として「看護、介護から予防」まで含み、大きな社会的責任と深い専門性を持っています。その活動範囲は、病人を対象とした狭い医療の世界に留まってはいません。少子高齢社会の福祉あるいは予防医学の実践者として国民的責務を負う職業人養成学部であります。

現場に目を移せば、患者さんを中心として、医師と看護師或は薬剤師、保健師など多くのスタッフが

います。医療提供者は免許で役割分担がされています。しかし、患者さんから見れば、おのおの違う役割を分担している職種を、厳密に区分しているでしょうか？　むしろ、病気を診断してくれた医師、病棟で看護サービスを受けた看護師、服薬指導をしてくれた薬剤師など、主たる医療提供者が変わることにそろそろ気づいているのではないでしょうか？　この現象は狭い意味のチーム医療とは少し異なった概念であろうと、我々は思っています。大阪医科大学では、それを医看融合と呼び新しい教育体制を構築したいと考えています。

時あたかも医療崩壊が叫ばれ、医師不足が声だかに取りざたされています。しかし、本日入学された皆さんが成熟した医療人になられるのが20年後としますと、少子高齢社会は終了し、人口は更に減少、１億人を切っていると考えられます。急務は医師、看護師が協調して働き、国民の幸福に繋がる医療や福祉を構築して参ることであります。ここに入学を許された皆さんは、新しい知性と感覚を持った医療人を目指して、同じ学び舎に学ぶアドバンテージを持っていられます。

最後に「百尺の竿頭一歩進め」と言う言葉を入学者全員に送りたいと思います。百尺もある高い竿の先（入学）まで歩む努力をされた皆さんは、入学が目的であったはずはありません。ここに満足することなく高度医療人を目指し一歩進んで下さい。我々教職員も、啐啄の機を大事にし、医療人育成に全力を注ぎたいと考えています。

皆さんの更なる成長を願って学長の式辞と致します。

大学院医学研究科

日　時：　平成24年４月３日（火）15：00～
場　所：　別館３階　大学院多目的講義室
入学生：　37名

■平成24年度　大学院医学研究科　入学式　式辞

学長　**竹中　洋**

本日は大阪医科大学医学研究科大学院入学お目出とうございます。皆様の入学に際して、教育の在り方に関して式辞を述べたいと思います。また、大学院改革も一定の方向性が見えましたので併せて報告をしたいと思います。

平成24年度入学宣誓式

皆さんは「啐啄（そったく）の機」と言う禅語をご存知でしょうか？

啐とは、口偏に卒業の卒を書きます。ヒナが卵の殻を破って出ようとして鳴く声。啄とは、同じく口偏にいのこと書き、母鳥が殻をつつき割る音を表しています。機はチャンスの機です。啐と啄両者が一致しないとひなは力つき、子を得ることは適いません。ここから、師と弟子の出会いの大切さを語る表現として用いられてきました。

皆さんは大学院の入学に当たり指導教員を記入されたと思います。また、各科試験や面接を経て、入学を許されています。即ち、「啐啄の機」を教員と皆さんが一度持ったことになります。どうぞ、この縁を大事にし「研究成就」と言う大輪の花を二人三脚で咲かせて頂きたいと思います。

もう一つは、昨年３月の東日本大震災に際して語られる「技術の敗北」や「科学の敗北」についてです。医学や医療も科学であり技術であることは言うまでもありません。しかし同時にベースに安全対策と呼ばれる危機管理を持った職業人のキャリア形成であります。

大震災のような自然現象は、最終的に外部環境と人類の相克でありこれは無限に続くものと考えられます。医学・医療が立ち向かう課題は今後も無数にあります。昨年も申し上げましたが、本学には設けられていませんが災害医療や放射線生物学も魅力的な研究対象であります。

大学院はアドミッションポリシーを定め、学則に定める以下の内容に対する深い理解と高い志を持った学生を求めています。

（１）医学の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与すること

（２）研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うこと

一方、平成19年度以降大学院は実質化を目標に多くの改革の最中にあります。昨年度には大学院教員組織が立ち上げられ、昨日大学院専任教授の発令も行いました。ソフト面では一定の成果が得られます。また、今年度からは学位審査の論文発表が公開されます。医学研究科大学院にとって平成24年度は引き続き重要な課題克服が残されています。我々教員は入学される皆様と新しい歴史を刻みたいと考えています。

最後に、曾てない、財政危機や少子高齢社会の到来などの国家的、社会的危機に直面している我が国で、純粋に教育を受け研究を行う環境に恵まれていることを皆様とともに感謝し、式辞の結びと致します。

本学の医学医療の未来は君たち若き研究者のために在ります。

病院長就任にあたって

病院長　黒岩　敏彦

平成24年４月１日付けで附属病院長を拝命いたしましたので、一言ご挨拶を申し上げます。初代 吉津度院長から26代目になります。

脳神経外科学講座教授として12年が経過し、教室も成熟しつつあると感じた時、救急医療部をはじめとする附属病院における表面化した諸問題に直面し、病院長として微力ながら私の力の及ぶ範囲で貢献できないかと思うに至りました。昨今の附属病院長の職責の重さを思う時、私の力量で兼任では無理があると感じ、専任という本学では初めての形になりました。改めて、その重責に身の引き締まる思いで一杯です。

ご存知のように本院は、915床の病院として29の診療科と13の中央診療部門を配し、特定機能病院、災害拠点病院、地域がん診療連携拠点病院などの指定を受け、附属病院開院から82年という長い歴史と諸先輩方の多大なご尽力に支えられ、北摂における地域医療の要を担ってきました。申し上げるまでも無く、大学附属病院の役割は、診療・教育・研究の３本柱に加え、地域・社会貢献であります。さらには、安定した経営基盤を築くための管理・運営体制の確立が必須です。診療においては、患者様の意見を尊重し、安全で優しい心の通った医療、低侵襲且つ最新・最善の質の高い医療を提供することを心がけています。さらに、周辺の医療機関と緊密な病々連携・病診連携を構築し、北摂地域のよりよい医療を目指していますし、これをより一層展開させるために新しい組織を準備中です。教育においては、医学部・看護学部学生の臨床実習の場、初期臨床研修の場、専門医取得や生涯教育の場を提供し、豊富な実績のある教育機関として機能しています。そのために、卒後臨床研修センター、キャリア形成支援センターといった特色ある組織を構築し、病院の理念である、良識ある人間性豊かな医療人の育成に力を注いでいます。また、臨床治験センターを設置して臨床試験の推進にも力を入れていますし、厚生労働省の認可の下に幾つかの高度医療を、全国の中心的役割を担う施設として進めています。今後は、患者様の入院環境の整備・改善のために、新病棟や手術棟の新築などを早期に実現すべく準備を進めて参りたいと思います。

何分にも若輩であり、浅学非才の身ではございますが、皆様のご指導ご鞭撻を賜りながら、附属病院と大阪医科大学の発展のために力を尽くしたいと心新たに強く思っておりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

略　歴

1979年３月　大阪医科大学　卒業
1979年５月　大阪医科大学研修医
1981年４月　大阪医科大学大学院医学研究科入学
1985年４月　大阪医科大学助手（脳神経外科）
1985年７月　米国モンテフィオーレ病院へ留学
1989年２月　大阪医科大学講師（脳神経外科）
1991年２月　大阪府三島救命救急センター医長
1994年４月　大阪医科大学講師（脳神経外科）
2000年４月　大阪医科大学教授（脳神経外科）
2001年４月　大阪医科大学附属病院臨床工学室長
2004年４月　大阪医科大学保健管理室長
2010年４月　大阪医科大学図書館長
2010年４月　大阪医科大学評議員
2010年４月　大阪医科大学同窓会「仁泉会」理事
2012年４月　大阪医科大学附属病院長（専任）
2012年４月　大阪医科大学理事

定年退職にあたって

森田　大　（救急医学教室）

着任以来はや５年が経過した。短い期間であったが、大組織の一員として大過なく終えることができたのも医局員はじめ多くの教職員のご支援の賜物と感謝している。

初期臨床研修制度の開始にあたり、研修医への全般的な救急診療を教えるのに最適な場所という認識が持たれたからであろう、本学にも紆余曲折を経て救急医療部が開設されたと聞いている。爾来、傷病頻度から軽症と中等症が主体となるＥＲ型救急としての役割を担ってきた。任を終えるにあたり要望を述べておきたい。

①病院全体の問題

本来ＥＲは患者を断らないところから出発している。都市部では他に病院があるからといって断っているようではまともなＥＲ医は育たない。ところが他の診療科からは、「救急部が患者を受けるから忙しくなってしまう。協力しない。」という文句をしばしば聞いた。院内たらい廻しも経験した。しかし、現状の救急医療部スタッフだけで救急患者は救えない。24時間365日専門診療科の力が必要な真の救急患者を病院全体が支えるという姿勢がないと、救急医は疲弊し診療科としての機能は潰れてしまう。当然、病院の収益も上がらない。トップの一言号令が待たれるのである。新院長に期待するが、大学病院として救急患者の受入に対する教職員の合意形成ができなかったり、人的・物的環境整備ができないようであれば既存の他の救急医療施設を利用する以外にない。

②ＥＲ医の問題

ＥＲ医はジェネラリストであるが故にほぼ全科にわたる幅広い知識や手技が必要で、促成栽培ができないのは事実である。従来からの臓器別スペシャリスト養成に偏った卒前卒後教育の結果、今の日本にはそんなに多くのＥＲ医がいるわけではない（日本救急医学会は重症患者対象の外傷救急医を育ててもＥＲ医を養成してこなかったことを含め）。一人前になるために成長を温かく見守ってほしい。

③患者の問題

断らないからといって、コンビニ受診はいかがなものか。診察の結果「病気が軽くてよかったね。」の一言で患者が安心するのは事実である。しかし、自分で軽症と分かっていながら、「熱が出たので診てもらえといわれたから。」とか「早く見てくれるから。」という理由で時間外に受診する不届き者もいる。一生懸命努力しようとする心が折れてしまう。便利屋扱いされる救急医はよほど強固な意志、忍耐力がないとやっていられない。

④医育機関としての問題

臓器別のスペシャリストの道を歩んでいても、本学の多くの医師は開業する。そのときに「俺は○○しか診れない。」などと言っておれば、一番困るのは患者である。とくに高齢者は複数の病気を持っている。しかも治らない。「△△の病気は□□科を受診してくれ。」とたらい廻しすることは高齢者には酷である。開業医ごとに処方されるので服用薬が過量になったり、似通った薬が重なることがあることから、adverse events（いわゆる医原病）で救急医療を要する機会が多くなる。本当の意味でのかかりつけ医として一元管理ができる総合的な医師が求められる所以である。内科医でも軽い怪我の手当ができなければならない。スペシャルティーを持つことを誰も否定していないが、スペシャリスト育成に偏るのではなく、今後必要とされるＥＲ型救急を経験したジェネラリストとしてのスペシャリスト養成に本腰を入れるべきだと思う。地域医療には大切な人材なのである。私学だからもっと融通を利かせて、「地域のためにはこのような人材を育てたい。そのためにはこのような教員が必要である。」という目標を展開して欲しい。

終わりにあたり、ＥＲ型救急という概念がまだまだ認知されていないわが国において、しばらく混乱が続くと思うがすべての医療の基礎となるべき救急医療部の発展と充実のために、より一層のご理解をお願いしたい。

定年退職にあたって

木下　光雄　（整形外科学教室）

若葉の光さわやかな季節になりました。大阪医科大学の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、私こと、平成24年３月31日をもちまして、本学を定年退職いたしました。退職にあたり、本紙面をお借りして退職と御礼のご挨拶を申し上げます。

私は、昭和49年春に本学を卒業し、整形外科学教室に入局させていただきました。当時、（故）有原　康次先生（整形外科学教室第２代教授）が定年退職された直後ということもあり入局者は私１人でしたが、同年に京都大学から小野村　敏信先生（整形外科学教室第３代教授）が着任され、以後、今日に至るまで公私共に慈父のごときご指導を頂いてまいりました。大学院で与えていただいたテーマがマイクロサージャリーに関係することでしたので、阿部　宗昭先生（整形外科学教室第４代教授）から直接のご指導を受けました。大学院を修了後、高槻赤十字病院に約３年半赴任しましたが、昭和59年に帰学してから定年を迎えるまで長く本学でお世話になりました。この間、教職員の先生方はもとより、看護師、放射線技師、リハビリテーション科や事務部門の方々など、多くの関係者の皆様方からご指導を賜りましたことに、あらためて厚く御礼申し上げます。とりわけ、竹中　洋学長からは、教授に就任以降、附属病院副院長、病院長時代を含め、ご懇篤なご指導をいただきましたことに深謝申し上げます。

私の教授としての任期は、本学での在職期間に比してとても短いものであり、教室員はもとより多方面にわたりご迷惑をおかけしたことを誠に申し訳なく思っています。ご容赦いただきますようお願い申し上げます。

私は、小野村　敏信先生、阿部　宗昭先生とお二人の教授からご指導を受けることができましたが、いろいろな面でお手本になる素晴らしい先達であり、師事できましたことをとてもありがたく思っています。教室員を指導する立場になってからは、都度、お二方からご薫陶を受けましたことを思い起こし、後進の育成に尽力させていただきました。お陰様で、在職中には教室員が一致協力して私をサポートしてくれ、大過なく勤めることができましたことは真に幸せであったと感謝しています。また、昨年の東日本大震災・大津波の後、岩手県立高田病院からの要請もあり、教室員を毎週およそ半年間にわたり派遣し医療協力させていただきました。当整形外科学教室がこのような形でお役にたてることができましたことは、教室員の医療人としての高い志によるものであり、長く培われてきた整形外科学教室の良き伝統のお陰であると思っています。このような素晴らしい教室を、短期間ではありますが主宰させていただけたことを大変幸甚に存じております。

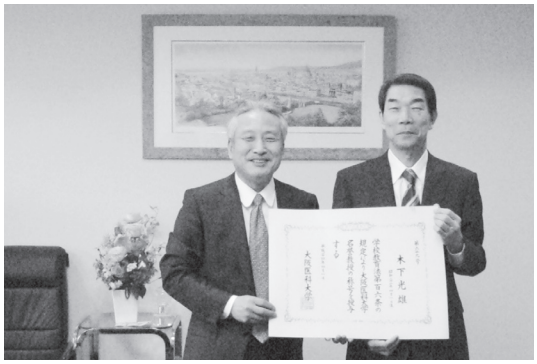
今後は、一整形外科医として臨床の現場で地域医療に少しでもお役にたてればと考えており、また、学会の役職を通じて微力ながら社会貢献できますことを希望しているところです。

末筆になりましたが、皆様のご健勝と今後益々のご活躍、そして本学の益々の発展を祈念して、退職と御礼のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

受賞等について

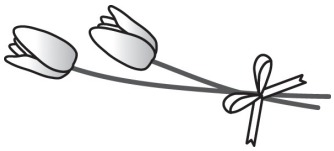
名誉教授称号授与



平成24年４月５日（木）学長室において、３月末日をもって定年退職されました木下光雄先生に名誉教授の称号が授与されました。

― 法　人　表　彰 ―

学校法人大阪医科大学は、本法人の経営改善に多大な貢献をされた村上澄子物流センター長代理に、賞罰規程第２条（表彰）の規程に基づき、平成24年２月14日（火）管理棟役員室において理事長から表彰が行われました。



研修医が選ぶ平成23年度の「ベスト研修医賞」の受賞について

平成24年３月９日、今年度の「ベスト研修医」に田中克研修医が選ばれました。ベスト研修医とは研修医全員が有権者となり、２年目の臨床研修医のうちから「基本的な診療能力（態度、技能、知識）や医療人として必要な基本姿勢・態度に優れ、代表として最もふさわしいと思う人物」を投票により選考するものです。田中克研修医には３月30日に挙行した研修修了式において木下病院長より賞状と記念品が贈呈されました。

平成23年度　第Ⅱ回　学位記授与式

日　時：　平成24年３月29日（木）15時～
場　所：　別館１階講堂（階段教室）及び３階大学院多目的講義室
大学院医学研究科修了者（甲）……　18名
論文提出者（乙）……　９名

番　　号	氏　　名	論　文　題　名
甲第896号	出垣　昌子 （学位記名：出垣（服部）昌子）	Effects of All-Trans Retinoic Acid Nanoparticles on Corneal Epithelial Wound Healing （オールトランスレチノイン酸ナノ粒子の角膜上皮創傷治癒に対する効果）
甲第897号	井畑　峰紀	Spontaneous rejection of intradermally transplanted non-engineered tumor cells by neutrophils and macrophages from syngeneic strains of mice （同種同系マウスの皮内に移植した、遺伝子操作をしていない腫瘍細胞の好中球とマクロファージによる自然拒絶）
甲第898号	大西　圭以子	Distribution, Elimination, and Renal Effects of Single Oral Doses of Europium in Rats （ラットに対する塩化ユウロピウム六水和物（$EuCl_3 \cdot 6H_2O$）単回経口投与後の血中移行、尿中排泄と腎への影響）
甲第899号	小倉　　健	Clinical impact of *K-ras* mutation analysis in EUS-guided FNA specimens from pancreatic masses （膵腫瘍性病変に対するEUS-FNA検体における*K-ras*遺伝子解析の有用性）
甲第900号	河上　　剛	上腕骨頭後捻角度の影響を除いた肩回旋可動域の計測法 －成長期投球障害肩の1評価法－ （Glenohumeral range of motion excluding side-to-side differences in humeral retroversion：An evaluation for throwing shoulder in a growth phase）

学位記授与式

番　　号	氏　　名	論　文　題　名
甲第901号	柴田　真帆	Disruption of gap junctions may be involved in impairment of autoregulation in optic nerve head blood flow of diabetic rabbits （糖尿病家兎の視神経乳頭血流自動調節能障害にはギャップ結合の遮断が関与している）
甲第902号	鈴木　進一	Urinary Uroporphyrin and Coproporphyrin Monitoring for the Assessment of Future Cancer Risk in Porphyria （尿中ヘム前駆体量測定によるポルフィリン症患者の発癌リスク評価）
甲第903号	髙崎　恭輔	Usefulness of the timed up-and-go（TUG）test as an indicator for care prevention among community-dwelling elderly （地域高齢者における介護予防指標としてのtimed up-and-go（TUG）テストの有用性について）
甲第904号	髙橋　賢吉	Enhanced Expression of Coproporphyrinogen Oxidase in Malignant Brain Tumors：CPOX Expression and ５-ALA-induced Fluorescence （悪性脳腫瘍におけるコプロポルフィリノーゲンオキシダーゼ発現量と５-ALAによる脳腫瘍の蛍光強度に関しての検討）
甲第905号	堤　　淳	The genetic validation of heterogeneity in schizophrenia （統合失調症における異種性の遺伝学的検討）
甲第906号	堤　　千春	Class II HLA genotype in fulminant type １ diabetes：A nationwide survey with reference to glutamic acid decarboxylase antibodies （劇症１型糖尿病におけるClass II HLA遺伝子型：全国調査におけるグルタミン酸脱炭酸酵素（GAD）抗体との関連）
甲第907号	中泉　敦子	Nitric oxide potentiates TNF-α-induced neurotoxicity through suppression of NF-κB （一酸化窒素はNF-κB の作用を抑制しTNFα誘発の神経細胞死を誘導する）
甲第908号	中村　君代	Involvement of SLX４ in interstrand cross-link repair is regulated by the Fanconi anemia pathway （鎖間共有結合の修復におけるSLX４の働きは、ファンコニ貧血経路によって制御される）
甲第909号	塗　　隆志	Anatomical study of medial and lateral sural cutaneous nerve：Implications for innervated disally-based superficial sural artery flap （腓腹部における知覚神経の解剖学的解析と、それに基づいた逆行性腓腹知覚皮弁の開発）
甲第910号	長谷田　文孝	Low CTLA-４ expression in CD４$^{+}$ helper T-cells in patients with fulminant type １ diabetes （劇症１型糖尿病患者のCD４陽性ヘルパーT細胞ではCTLA-４が低発現している）
甲第911号	細川　隆史	Increased serum matrix metalloproteinase-９ in neuromyelitis optica：Implication of disruption of blood-brain barrier （視神経脊髄炎における血清MMP-９の上昇：血液脳関門の破綻との関連について）
甲第912号	安井　憲司	A new manual method for assessing elbow valgus laxity （新たに考案した用手検査法による肘外反弛緩の評価）
甲第913号	山本　誠士	Clinical outcomes of laparoscopic surgery for advanced transverse and descending colon cancer：a single-center experience （横行結腸・下行結腸進行癌に対する腹腔鏡下手術の臨床成績）

番　　号	氏　　名	論　文　題　名
乙第1099号	岡　　智子	Preferential expression of phosphatidylglucoside along neutrophil differentiation pathway （好中球分化経路におけるホスファチジルグルコシドの優先的発現）
乙第1100号	柚木　　歩	Evaluating the effects of testing period on pollinosis symptoms using an allergen challenge chamber （花粉曝露室を利用した、花粉症患者に症状を誘発する曝露時期に関する検討）
乙第1101号	清野　智恵子 （学位記名：清野（藤村）智恵子）	Onset and spreading patterns of lower motor neuron involvements predict survival in sporadic amyotrophic lateral sclerosis （孤発性筋萎縮性側索硬化症の病態進展様式と予後に関する研究）
乙第1102号	森内　宏充	踵の高さの違いによる足底圧分布の変化 （The effect of varying heel heights on the distribution of plantar pressure）
乙第1103号	吉村　勝弘	Clinical Epidemiological Study of 553 Patients with Chronic Rhinosinusitis in Japan （日本における慢性鼻副鼻腔炎症例553例を対象とした臨床疫学的調査）
乙第1104号	平田　裕二	Antifungal prophylaxis with micafungin in neutropenic patients with hematological malignancies （悪性造血器疾患患者における好中球減少時のmicafunginを用いた真菌感染症発症予防についての検討）
乙第1105号	阿部　洋介	Simvastatin attenuates intestinal fibrosis independent of the anti-inflammatory effect by promoting fibroblast/myofibroblast apoptosis in the regeneration/healing process from TNBS-induced colitis （実験腸炎モデルの組織修復・再生過程においてSimvastatinは抗炎症作用に依存せず線維芽細胞／筋線維芽細胞のアポトーシスを介して線維化を減弱させる）
乙第1106号	東野　正明	Interleukin-19　Downregulates Interleukin-4-Induced Eotaxin Production in Human Nasal Fibroblasts （インターロイキン19は、ヒト鼻線維芽細胞においてインターロイキン4が誘導したエオタキシンの産生を抑制する）
乙第1107号	糟谷　彰宏	*In Vivo* Degradation and New Bone Formation of Calcium Phosphate Cement-Gelatin Powder Composite Related to Macroporosity after *In Situ* Gelatin Degradation （リン酸カルシウム骨セメント・ゼラチンパウダー混合人工骨の生分解性および骨形成の評価）

平成24年度科学研究費助成事業交付内定

平成24年度科学研究費助成事業交付内定について

平成23年11月に文部科学省ならびに日本学術振興会へ応募した193件の新規研究計画に対し新規36件、継続28件の合計64件の内定がありました。（平成24年４月４日現在）

※学術研究助成基金助成金については、採択初年度に研究期間全体の交付内定が行われるため、年度毎の交付内定はありません。
（平成23年度に採択された学術研究助成基金助成金の交付内定は、今年度は行われません。）

研究種目	新規応募件数	交付内定件数		
		新規	継続	合計
新学術領域研究（研究領域提案型）（継続の研究領域）	1	0	1	1
基盤研究（Ａ）一般	1	0	0	0
基盤研究（Ｂ）一般	9	1	3	4
基盤研究（Ｃ）一般	102	19	17	36
挑戦的萌芽研究	17	5	2	7
若手研究（Ａ）	2	0	0	0
若手研究（Ｂ）	61	11	3	14
研究活動スタート支援	0	0	2	2
合　計	193	36	28	64

（注）研究活動スタート支援については、平成24年度公募中のため継続の課題のみ記載
内定時点で退職等により不在の研究代表者の所属・職名は応募時のもの

≪科学研究費助成事業（科学研究費補助金）≫

■新学術領域研究 研究領域提案型

〔研究課題番号順〕　（単位：千円）

研　究　課　題　名	所属	職名	研究代表者名	継続	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
ATP駆動の回転分子モーターを用いたATP加水分解の１分子熱力学	物理学	助教	古池　晶	*	1,800	0	0	0	0

■基盤研究（Ｂ）一般

〔研究課題番号順〕　（単位：千円）

研　究　課　題　名	所属	職名	研究代表者名	継続	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
Tregバンク（CD28SA＋幹細胞共培養）免疫寛容＋MF１導入：移植腎永久生着	泌尿器科学	教授	東　治人	*	2,600	2,200	0	0	0
遺伝子破壊メダカとニワトリBリンパ球細胞を使用した化学物質の複合影響評価	衛生学・公衆衛生学	教授	河野　公一	*	1,300	0	0	0	0
腫瘍選択的高LET高RBE粒子線治療による治療抵抗性グリオーマ幹細胞制圧の試み	脳神経外科学	准教授	宮武　伸一	*	6,100	1,300	0	0	0

■基盤研究（Ｃ）一般

〔研究課題番号順〕　（単位：千円）

研　究　課　題　名	所属	職名	研究代表者名	継続	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
電気分解法を用いた医療廃液処理技術の開発と評価	微生物学	准教授	中野　隆史	*	500	0	0	0	0
蝸牛内直流電位の調節に対する細胞間タイト結合（クローディン）の役割	生理学	教授	窪田　隆裕	*	600	0	0	0	0
心筋カルシウム制御タンパク質及びイオンチャネルにおける糖鎖機能の解明	薬理学	教授	朝日　通雄	*	500	0	0	0	0
トランスサイレチン起因アミロイド凝集形成機序としてのラジカル反応の分子機構解明	臨床検査医学	准教授	中西　豊文	*	800	0	0	0	0
PPARアゴニストが高血圧・糖尿病動物モデルの心脂質量・心機能に与える影響の検討	内科学Ⅲ	教授	石坂　信和	*	600	0	0	0	0
小児起立性調節障害の新しいサブタイプの同定と、新治療法の効果に関する研究	小児科学	准教授	田中　英高	*	500	0	0	0	0
胎内肺傷害後の重症新生児慢性肺疾患患児における細胞外酸化還元環境の破綻	周産期センター	講師	荻原　享	*	600	0	0	0	0

研　究　課　題　名	所属	職名	研究代表者名	継続	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
統合失調症と感情障害の中間型に対する疫学調査	神経精神医学	准教授	康　　純	*	1,700	0	0	0	0
分泌型CEACAM－1はマウス移植乳癌の血管とリンパ管新生を促進する	解剖学	講師	伊藤　裕子	*	500	0	0	0	0
アクロメリン酸誘導体を用いた神経障害性疼痛治療薬の開発と痛みの定量化	麻酔科学	教授	南　　敏明	*	1,600	0	0	0	0
癌幹細胞をターゲットとした子宮内膜癌の浸潤・転移制御と分子標的治療への応用	産婦人科学	講師	寺井　義人	*	900	0	0	0	0
頭頸部扁平上皮癌におけるプロスタグランジン受容体の解析とその臨床的意義	耳鼻咽喉科学	教授	河田　　了	*	1,000	0	0	0	0
緑内障モデルにおけるP2X7受容体活性化と網膜神経節細胞障害の関連性	眼科学	講師	杉山　哲也	*	1,000	0	0	0	0
活性化グリア細胞を介した網膜傷害に対するスタチンの抑制効果の検討	眼科学	診療准教授	奥　　英弘	*	900	0	0	0	0
ラットを用いた肺高血圧に対する新しい薬物治療アプローチ	胸部外科学	准教授	根本慎太郎	*	1,000	0	0	0	0
医療的ケアに携わる看護師の学校での活動基盤づくりと専門性を高める支援モデルの作成	看護学科	教授	泊　　祐子	*	900	800	0	0	0
在宅療養者と家族のQOL向上を目指した小地域基盤型ケアコミュニティの開発	看護学科	准教授	真継　和子	*	700	800	0	0	0

■挑戦的萌芽研究

〔研究課題番号順〕　（単位：千円）

研　究　課　題　名	所属	職名	研究代表者名	継続	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
高分子ミセルを用いた卵巣癌の癌幹細胞に対する標的治療の開発	産婦人科学	教授	大道　正英	*	600	0	0	0	0
臓器移植を受ける患者及び家族に対する倫理的関わりモデルの開発	看護学科	教授	林　　優子	*	1,100	0	0	0	0

■若手研究（B）

〔研究課題番号順〕　（単位：千円）

研　究　課　題　名	所属	職名	研究代表者名	継続	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
カルシウム測定系を利用した葉緑体からの新規細胞内情報伝達経路の解明	生物学	講師	原田　明子	*	900	0	0	0	0
アロ活性化マクロファージによるアロ移植細胞拒絶機構の解析	泌尿器科学	講師	能見　勇人	*	700	700	0	0	0
皮内での腫瘍細胞の増殖と拒絶を制御する免疫細胞と因子による新しい癌根治療法の開発	形成外科学	非常勤医師	井畑　峰紀	*	900	0	0	0	0

■研究活動スタート支援

〔研究課題番号順〕　（単位：千円）

研　究　課　題　名	所属	職名	研究代表者名	継続	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
虚血心筋ホーミングペプチドを用いた組織選択的心不全治療法	胸部外科学	助教	神吉佐智子	*	1,200	0	0	0	0
インスリンによる血管作動性因子を介した摘出網膜血管の反応性と加齢による影響	眼科学	講師（准）	喜田　照代	*	500	0	0	0	0

平成24年度科学研究費助成事業交付内定

≪科学研究費助成事業（科学研究費補助金）≫

■基盤研究（B）一般

〔研究課題番号順〕　（単位：千円）

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
難治性子宮内膜癌の治療戦略～高分子ミセルを用いたEMT制御を目指した治療の開発～	産婦人科学	教授	大道　正英		5,600	5,200	3,400	0	0
	内　科学研究費補助金				3,000	3,700	2,500	0	0
	内　学術研究助成基金助成金				2,600	1,500	900	0	0

≪科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）≫

■基盤研究（C）一般

〔研究課題番号順〕　（単位：千円）

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
ギリシア哲学における正義論の理性的、感情・情動的、社会的、また宇宙的基盤		功労教授	金山萬里子		600	1,000	1,000	600	0
ピリドキサール酵素の反応特異性制御機構の解明	化学・生体分子学	教授	林　秀行		1,400	1,500	1,300	0	0
薬物摂取歴推定の高度化のための単毛髪質量イメージング法の開発と取込機構の解明	法医学	准教授	土橋　均		1,600	1,400	800	0	0
人工血管移植後の外膜側線維芽細胞の遊走と血管内腔狭窄の機序の解明と治療法の探索	薬理学	講師	金　徳男		1,300	1,600	1,200	0	0
質量イメージングによる関節リウマチ関節滑膜組織の疾患関連分子プロファイル解析	内科学Ⅰ	講師（准）	武内　徹		1,500	1,300	1,300	0	0
日本人高齢者におけるサルコペニアの定義およびその妥当性の検証	衛生学・公衆衛生学	講師	谷本　芳美		2,500	100	100	300	0
劇症1型糖尿病の成因解明－制御性T細胞の量的・質的異常とその制御－	内科学Ⅰ	教授	花房　俊昭		800	1,600	1,600	0	0
インフルエンザ心筋炎における血管内皮機能障害の意義と治療に関する研究	内科学（総合診療科）	専門教授	浮村　聡		3,200	600	300	0	0
母乳脂質濃度調節における核内受容体群クロストーク機構の解明	小児科学	講師（准）	瀧谷　公隆		2,100	1,000	1,000	0	0
色素性乾皮症神経変性に対する治療法の探索～抗酸化という側面からの基礎的検討～	皮膚科学	教授	森脇　真一		1,700	1,100	1,100	0	0
in　vitro膵発癌モデルの確立と発癌メカニズムの解明	一般・消化器外科学	講師（准）	宮本　好晴		1,500	1,400	1,200	0	0
神経節内における細胞間異常接合が引き起こす三叉神経痛発生メカニズムの研究	解剖学	講師（准）	早﨑　華		1,500	1,300	1,300	0	0
癌性骨痛を制御する因子の同定とその機能的役割の解明	解剖学	助教	中西　雅子		1,600	1,200	1,200	0	0
婦人科悪性腫瘍に対する治療が及ぼす心血管リスクのサーベイランスと予防法確立	産婦人科学	講師（准）	田辺　晃子		1,300	1,600	1,200	0	0
卵巣明細胞腺癌に対するmTOR阻害剤によるEMT現象の制御とその応用	産婦人科学	助教	恒遠　啓示		1,600	1,300	1,200	0	0
顔面神経麻痺患者のウイルス特異的免疫能－ワクチン接種による発症予防の基礎的研究－	耳鼻咽喉科学	准教授	萩森　伸一		2,300	700	1,100	0	0
緑内障手術後の瘢痕癒着抑制に向けた薬剤徐放システムの構築	眼科学	講師	小嶌　祥太		2,500	800	800	0	0
黄斑疾患の発症機序における網膜幹細胞の関与	眼科学	教授	池田 恒彦		1,400	1,400	1,300	0	0
アトピー性皮膚炎女性の月経周期におけるスキンケア・メイクアップに焦点化した看護	看護学科	講師	カルデナス 暁東		2,400	800	500	200	0

■挑戦的萌芽研究

〔研究課題番号順〕　（単位：千円）

研究課題名	所属	職名	研究代表者名	継続	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
運動障害者に対する低周波による非随意的筋収縮を用いた生活習慣病の予防に関する研究	リハビリテーション医学	教授	佐浦　隆一		1,600	1,300	0	0	0

平成24年度科学研究費助成事業交付内定　研究助成金等について

研　究　課　題　名	所属	職名	研究代表者名	継続	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
オートラジオグラフィー・カルシウムイメージングによる脳・脊髄の痛みの可視化	麻酔科学	助教	宮﨑信一郎		1,500	700	0	0	0
体液性調節因子の支配を受けない肝臓の自律的血糖調節機構と新規降血糖薬の開発	化学・生体分子学	講師	渡邊　房男		1,700	600	500	0	0
脳放射線壊死の病態解析と治療への応用	脳神経外科学	准教授	宮武　伸一		1,900	1,000	0	0	0
革新的膀胱温存療法:「硼素膀胱局所動注＋中性子照射」による癌細胞選択的破壊	泌尿器科学	教授	東　　治人		1,400	1,500	0	0	0

■若手研究（B）

〔研究課題番号順〕　　（単位：千円）

研　究　課　題　名	所属	職名	研究代表者名	継続	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
低線量放射線による発がんリスクの高感度DNA損傷マーカーを用いた解析	解剖学	講師	中村　麻子		3,200	1,800	0	0	0
プロテオーム解析による乳癌の5－FU耐性機構の解明とその応用	一般・消化器外科学	助教（准）	木村　光誠		1,000	1,000	1,200	0	0
ダウン症候群における肺高血圧症危険因子の探索	周産期センター	助教（准）	岸　　勘太		1,100	1,100	1,100	0	0
早産児小脳障害と女性ホルモンの関与及び治療応用について	小児科学	助教（准）	山岡　繁夫		500	500	1,300	0	0
うつ病と統合失調症患者におけるm－ECT前後におけるNIRS所見に関する研究	神経精神医学	助教	堤　　淳		1,400	500	0	0	0
軟骨細胞分化におけるヘパラン脱硫酸酵素の役割と変形性関節症への治療応用	整形外科学	助教	大槻　周平		1,200	1,100	1,000	0	0
低分子ユビキチン様修飾因子の翻訳後修飾による進行性前立腺癌の治療	泌尿器科学	講師	稲元　輝生		800	800	800	800	0
難治性子宮内膜癌におけるEMTマーカーとしてのCD24の意義とEMT制御に向けて	産婦人科学	助教	田中　良道		1,800	1,500	0	0	0
妊娠子宮の収縮に対するプロゲステロン受容体の役割　～陣痛発来機序の解明にむけて～	産婦人科学	助教	藤田　太輔		700	700	700	0	0
音響障害モデル動物を用いた難聴治療法の開発－細胞生物学的視点よりのアプローチ－	耳鼻咽喉科学	助教	乾　　崇樹		1,500	700	1,000	0	0
2型糖尿病の新しい評価尺度としての睡眠パターンの検討と看護支援プロセスの明確化	看護学科	助教	西尾ゆかり		1,400	500	0	0	0

研究助成金等について

■平成23年度研究奨励金［公益財団法人上原記念生命科学財団］

研　究　課　題　名	氏名（所属名・職名）	助成金額
半月板自己修復の可能性と新規治療法の確立	大槻　周平（整形外科学・助教）	200万円

■平成23年度研究助成金〔公益信託循環器学研究振興基金〕

研　究　課　題　名	氏名（所属名・職名）	助成金額
exendin-4が脳心筋炎ウイルス感染膵β細胞のケモカイン発現に与える影響の解析	神吉　佐智子（胸部外科学・助教（准））	200万円

■平成23年度研究助成金〔公益財団法人中冨健康科学振興財団〕

研　究　課　題　名	氏名（所属名・職名）	助成金額
ストレスに対する軟骨内細胞シグナル反応とその調整因子	大槻　周平（整形外科学・助教）	100万円

○研究協力課から処理（申請・機関承認等）しました公募助成金他のうち、内定・採択を確認できたものを掲載しています。
研究協力課へ掲載依頼のため情報提供下さったものを含めています。

平成24年度 事業計画および予算の概要

Ⅰ．背景と方針

［1］事業計画立案の背景

（1）世界の背景

平成24年度の世界経済は、新興国経済が底堅く推移することで、全体としてやや回復基調を辿るものの、一部では経済成長が失速し始める新興国も出てくると想定される。他方、欧米先進国の景気の低迷長期化は避けられず、新興国も欧米向け輸出依存の体質を是正できない中、新興国の経済成長が日本を含む先進国経済を引っ張り上げるほどの力には欠けており、世界経済回復の力強さはそれほど大きくない模様である。

（2）日本の背景

平成23年に発生した東日本大震災の影響が、今後本邦の社会情勢にどのような影響を及ぼしていくのか、また政治情勢がこれからどのように展開していくのか、現状ではまだまだ不安定要素が多く、予断を許さない状況下にある。

①　日本経済

最近の日本経済の動きは、東日本大震災発生と海外経済変調に大きく影響されている。中期的に見てもデフレは継続し、また繰り返すであろう経済的ショックと共に、潜在成長率は低下するなど、成長困難な状況が継続すると思われる。また、今夏には原発事故の影響で電力供給の制約がさらに生じることが予想され、節電やエネルギー関係経費の実質値上げが経済成長率を押し下げる可能性もある。

②　医療政策

平成24年度の診療報酬改定は全体の改定率で＋0.004 %（内訳：診療報酬本体＋1.379 %、薬価等△1.375 %）と大変僅かではあるが、平成22年度に引き続きプラス改定が示された。平成24年度診療報酬改定に当たり、政府は、国民にとって健康やそれを支える医療は生活の基盤であり、超高齢化社会においても、国民全員が高質の医療を受け続けるためには、持続可能な医療保険制度を堅持し、効率的かつ効果的な医療資源の配分を目指すことが重要との基本的な考え方を示した。こうした背景を踏まえ取り纏められた「社会保障・税一体改革成案」に沿って、病院・病床機能の分化・強化と連携、在宅医療の充実・重点化と効率化等を着実に実現していこうとしている。また今回の改定は介護報酬との同時改定であり、今後増大する医療・介護ニーズを見据えながら、地域の既存の資源を活かした地域包括ケアシステムの構築を推進し、医療サービスと介護サービスを切れ目なく提供すると共に、双方の役割分担と連携をこれまで以上に進めることが必要である。

③　税政改革

政府は消費税の増税をメインに据えており、2015年10月迄に段階的に10％まで引き上げ、当面の社会保障財源とする方針である。医療機関が保険診療で必要とする医薬品・医療機器等には同税が課せられているが、消費税特例により、医療機関が患者から徴収する診療報酬に同税を課することができないため、医療機関の開設者は同税を一方的に負担している。また、教育機関においても同特例により同様の負担を設置者が負うことになっており、消費税増税は学校法人経営に深刻な影響

を及ぼす。

④　女性就業と少子化

今後、女性の就業機会を増大させ、少子化問題にも対応していくためには、「社会で男女が共に家事・子育てを両立できるような働き方への転換」「仮に子育てを機に退職しても、その後、良好な再就職機会が得られやすい労働市場の整備」「子育てと仕事を両立できる弾力的な保育サービスの供給」などが必要である。

⑤　受験動向

受験動向は、経済不況や震災の影響で不透明感を増す中、このような社会情勢を反映しいわゆる「不況型入試」が続いている。即ち、学費の安い国公立大学、就職に強い理工系そして地元志向、安全志向の傾向が見られる。受験人口は少子化にも関わらず、75万人前後で横ばい傾向が続いている。当面は「文低理高」が続き、医学部をはじめ歯学、薬学、看護、保健といった医療関係の系統はほぼ安定した受験生が確保できる見込みである。

⑥　ＴＰＰ

TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）の問題であるが、仮に結ばれた場合、本邦の医療界への影響は計り知れないものがあり、今後のTPPへの政府対応の動向を注視していく必要がある。

（３）本法人の背景

①　財政の磐石化

本法人は、平成23年度決算において収支改善の緒に就く見込みであるが、本法人の財政状況は未だ安定したとは言い難い。特に、大型投資の影響で赤字を計上してきたことで脆弱化した財政基盤の痕跡を払拭するには、今後相当の期間を要する。

本法人の財政状況を左右するのは、本学全体の収入の７割強を占める医療収入にある。過去の収支状況の悪化は、病院関係の設備投資や機器購入を大幅に増やしたにも関わらず病院収入が思うように伸びなかった結果であった。そこで、病院収益の確保および運営管理の強化が、当面何よりも優先される課題であるという認識の下、平成22年度から理事会直轄の委員会として理事長を委員長、病院長を副委員長とする「病院経営改善委員会」が設置された。現在までに各診療科と３回に亘りヒアリングが実施され、改善方法の議論がなされた。診療報酬のプラス改定の影響はあるものの「病院経営改善委員会」で真摯な議論を重ね、病院収支改善について具体的な動きを行うことで、結果的に法人全体の収支が漸く黒字化し始めた。財政基盤を一層磐石化して、将来に亘って帰属収支差額を安定的に10億円以上の黒字とし、できれば早期に繰越消費支出超過を解消して黒字化し、本法人が発展し続ける組織体質を作り上げていくことが、今の本法人に課せられた最重要の課題である。

②　建物整備

本法人の目的を達成するための一つの重要な基盤となるのが「建物整備」である。本法人に関わる多くのステークホルダーが、本法人で安全かつ良環境の中で教育・研究・医療を実践し、享受するためには「建物整備」が必須である。本法人としても整備計画に従い、一部建物の新築、また大幅な病棟の改修工事を行ってきた。ただ本法人の建物が既存病棟を中心に築後30～40年経つことを勘案すると、「中長期的な観点の建物整備計画」を立案することが必要不可欠で、特に病棟の新設整備は近い将来着手する必要がある。

最近の各診療科からのヒアリングで、総じて新病棟に求められるのは中央手術室関連の機能であ

ると考えられる。高機能手術室や日帰り手術室を含めICU、CCU、中央材料室、病室の一部など超急性期および急性期疾患に対応する機能を新棟に入れる必要がある。時期の特定は難しいが、条件が整い次第建替えを実施できる準備をする。

③　大阪薬科大学との合併

合併の目的は、本学と大阪薬科大学の連携を一層強化して、将来的に教育・研究・医療の総合的な推進を図るとともに、経営基盤の強化に資することにある。医師、看護師、薬剤師の養成を一つの法人の下で行うことにより、今後、臨床現場で求められているチーム医療を目指した総合医療教育の推進に貢献する基盤を作る。

④　新研究科の設置

平成23年度に、大学院教授会から医学研究科修士課程および看護学研究科博士課程前期後期の開設計画が提示され、理事会において設置の方向で検討を続けることとなった。研究科のうち看護学研究科博士課程前期では、今後医療現場で求められる看護系の高度専門職を養成することを使命としており、社会的要請の強い事業である。

［2］事業計画立案の方針

事業計画は３～５年の中長期計画を立て、それを年度計画に落としていく手法を採るのが一般的である。しかし、世界経済の不安化や震災によって本邦の政治、社会、経済などの情勢は不安定な状況に置かれており、先行きを見通すことがかなり困難である。そこで、当面４年の中期計画項目を示し、診療報酬の改定に合わせて２年ごとに見直しを行い、年度計画は中期計画項目を中心に立案することとし、以下に示す事業を中期計画項目とする。

①　財政基盤の強化

本法人の財政が安定しないと、教育・研究・診療などを充実させる投資ができないことは、従来から色々な局面で繰り返し言われており、理事長も「財政基盤の強化」として「あらゆる手段を講じて財政の磐石化を図る」と全学に向かって指示され、この大方針に基づいて事業計画を立案する。

すなわち、大型設備投資は最小限にとどめる方針とし、極力手元資金を潤沢にする。今後２年間は、引き続き現有設備を最大限に有効利用して、将来の病院建物等の新規設備投資に充当できる資金を蓄積する。ただし、システムや機器などで更新時期が大幅に過ぎているもの、また安全性に問題のあるものについては対応する。

加えて、同年度の財務数値が予定している本学看護学部大学院設置準備の基準値となるため、設置申請に必要な対応を採る。

②　病院経営の改善

病院経営改善委員会においては、平成23年度に引き続き、診療科毎の収入の適正化は勿論のこと、病院への設備投資、電子カルテの導入を含むシステム構築、医療機器の購入などについても検討し、ヒアリングを定期的に実施しながら病院経営の方針を決めていく。

③　法人合併の協議

学校法人大阪薬科大学との連携・合併については、平成24年度にもさらに協議を重ねて、より具体的な検討を深め、その実現化を図るべく「法人合併協議会」で話し合うこととする。

④　新棟の建築

八丁畷キャンパスと府営住宅跡地と交換し、新棟建築の種地となる校地を確保する。また都市再生整備計画提出後の社会や経済の大きな変化に対応するため、従来の病院改築計画概案を見直したうえで、直近に建築する新棟の設計を開始する。

⑤　その他

その他に、主な項目別の計画と課題は次のとおりである。計画から実行に移す項目については、社会情勢を見据えた上で、十分な検討を加えつつ柔軟に実施する。

○校地　・校地資産価値の良質化
①西キャンパス発掘調査　②さわらぎキャンパス里道整理
③北キャンパス北側遊休地活用　④有休土地の有効利用

○病院、校舎　・校舎等の資産価値の良質化
①管理棟と中央資料館の一部復元　②第２総合研究棟、共同利用棟新築

○設備、備品　・研究用、各種医療機器の整備
・教育用ＩＴシステムの構築
・全ＩＴシステムの統合

○組織　・大学院
①医学研究科の実質化　②新研究科設置
・教育研究組織
①教員評価と報奨　②コンプラの高い組織へのＳＤ
・事務組織
①事務局制の確立　②人事考課と報奨　③コンプラの高い組織へのＳＤ
・附属病院
①看護師確保体制の整備

Ⅱ　主な事業計画

1. システム構築関係

（1）循環器対応バイプレーンアンギオシステム［中央放射線部］

現装置は平成９年11月導入以来すでに14年が経過。部材の保証期間も過ぎ、受光部の劣化でＸ線被曝量が増加し、患者の放射線皮膚障害が懸念される。また、緊急時に使えない可能性があり、安全性の確保と緊急性の対応のため導入する。

（2）脳血管治療用バイプレーンアンギオシステム［脳神経外科］

現装置は平成13年10月導入以来すでに10年が経過。部品劣化でＸ線被曝量が増加し、患者への障害が懸念されリスクが増加している。安全性の確保と緊急性の対応のため優先的に導入するもの。

（3）エンサイトシステム［循環器内科］

カテーテルアブレーション治療時の診断・治療に用いる。診断力、スピードの向上、レントゲン透視時間の短縮とカテーテルアブレーション手術時間の短縮が可能となり、手術件数の増加が見込まれる。

（4）手術用ナビゲーションシステム２台［脳神経外科］

最近の同システムは、開頭手術だけでなく、脊椎手術や脳深部刺激においても活用できるようになり、フュージョン画像の作成も容易に行えるようになっている。脳神経外科また整形外科でも常時使用することで安全な手術が行える。画像等手術支援加算を算定でき、病院収益にも貢献する。

（5）法人ＩＴシステム統合企画・運営・教育一式［総合企画部］

各種企画の運営費用。①現行人事システム運用分析・分析に基づく新システム運用指針策定　②人事育成方針の策定支援・人事考課制度の設計支援　③情報セキュリティー・モチベーション・コーチング等研修　④人事評価者向研修会、定例会支援

（6）奨学金管理システム更改［総合企画部］

平成16年から稼動している同システムは稼動後８年が経過し、保守期間も部品の在庫も終了。このままでは多額に入る奨学金管理の機能が著しく低下することが危惧され、今回のハードウェアの更新を機に、現状の業務フローも再構築し、業務の最適化と標準化を行う。

（7）ソフトウェアＭＯＥ継続利用分子構造解析支援システム［医学情報処理センター］

現在、本学での分子構造関連の研究は、主にCCG製のMOEを使用。本パッケージは平成14年度の私学助成により導入、平成19年に同じ構成でライセンス更新を実施。引き続き、来年度以降もMOEを継続利用するために予算計上する。

2. 医療機器関係

（1）網膜硝子体手術装置［眼科］

現在使用中の同装置は、導入後12年以上経過し、修理部品の供給が困難。今回の機器は、従来のものより安全性が高く、現在負担を掛けて行っている手術と比較すると、数年後の視力回復に大きな期待が持てる画期的な機器である。

（2）生命維持管理装置（人工呼吸器）［臨床工学室］

同装置は、経過年数が長い機器から順次更新していく必要がある。特に人工呼吸器は購入費用が高いため、計画的に行うことが望ましい。来年度から経10年となる機器が出てくるため順次購入し、保守も医療法に準じ、安全が担保できるよう適正に実施していく。

3. 主な改修・補修工事

（1）電話交換機（PBX）更改工事一式［物流センター］

本学では、固定電話及びPHS電話と構内回線で3,000以上の通信回線を運用している。そのほとんどが電話交換機（PBX）を経由し各端末との通信を確保しているが、既存交換機は総合研究棟が建設されてから移設され、回線増加や拡張機能のため増設・バージョンアップを繰り返し、現在まで10年以上24時間フル稼働で運用されてきた。附属病院における通信機能は１秒たりとも停止が許されないのが現状であり、既存電話交換機の老朽化は大変危険な状態であると判断され、今般、品質と安全性を何よりも優先し、PBXの更改工事を行う。

（2）大阪府営住宅解体工事及び埋蔵文化財調査［総合企画部］

平成24年８月末をもって、本学旧愛泉寮跡地と大阪府営北園住宅との交換が実施される。土地交換完了後には、府営住宅を解体し、埋蔵文化財の発掘調査を行う必要がある。この解体費と埋

蔵文化財調査費として本費用が発生する。

（3）附属病院新病棟建設調査［総合企画部］

都市再生特別措置法に基づき「都市再生特別地区における事業計画」を提案し、国の認定を受けた。その後当初計画案を見直し、今後の附属病院や大学の新棟建設の基本計画案を纏めて、実施に向けた詳細な計画を策定することになった。先ずは附属病院の基本設計と開発手続きを行う。

（4）総合研究棟ヒートポンプチラー更新工事［施設課］

この機器は総合研究棟全体へ供給している空調機のみならず、本館図書館棟の全体空調へも供給している。設置後22年を経過して故障が頻発し、１台は運転ができない状態。最新機器への更新を行うことで、ランニングコストの削減も図れる。

（5）総合研究棟外壁改修工事［総合企画部］

総合研究棟の外壁を調査した結果、外壁タイルの一部浮きやひび割れが判明した。当建物は、竣工後５年目に阪神大震災の揺れを受けており、その剥離とその後15年の経年により劣化した。先ず東西の壁面工事を実施し、年度を変え南北も実施。

（6）看護学部校舎改修工事［総合企画部］

看護専門学校の閉校に伴い、看護専門学校との併用施設から看護学部の専用施設として使用するにあたり、教育内容などの変更に伴う施設の修理、及び大学院設置に伴う大学院室等、設置基準上の必要な諸室等の確保のため、改修工事を行う。

（7）中央材料室洗浄装置更新［施設課］

本装置は，医療材料の高い洗浄レベルの保持と洗浄業務の効率化、職員の職業感染を防止することを目的に平成７年購入。長期使用により老朽化しており、稼動が滞ると病院器材の洗浄業務に多大なる支障が生じる。よって、洗浄業務を安定的に実施するためにも早急な購入が必要である。

（8）総合研究棟動力盤内機更新［施設課］

総合研究棟各階にある動力盤に、空調機器・給排設備等の運転監視・発停制御をしている電子部品や電磁接触器等が、経年（24年目）による制御不良が発生しているため、制御機器の更新をする。

4. その他

（1）課題解決型医療機器の開発・改良に向けた病院・企業間の連携支援事業［一般・消化器外科学教室］

経済産業省を委託交付元に一般・消化器外科学教室が病院・企業間の連携支援事業を行う。公募型受託事業であり、内定を条件に予算執行を承認する条件付予算。補助金が入るまで、各企業に対して本学が資金を建て替える形となる。同年度内に、収入として同金額が入金される。

（2）看護師確保計画［人事課］

近年ワークライフバランスや産休、育休等による看護師欠員が増加していること、またMFICUやGCU設置時の看護師を増員することなく対応したため、このままの状態が続けば、７：１看護基準が達成できなくなることが懸念され、その場合は病院収入に大きな影響を与えることは必定である。特に、本学看護専門学校の閉校で卒業生がいない平成25年度対策としては、早急に奨学

金制度を整備して看護師確保をする必要があり計上する。

（3）外来カルテと入院診療録の外部保管［診療情報管理室］

院内での倉庫が手狭なため、外来カルテは平成16～17年の外来カルテを外部倉庫へ搬出する。入院診療録については、平成16～18年に退院された患者分を一定の条件で選別後抽出し、外部倉庫へ搬出する。

（4）病院経営改善コンサルティング［総合企画部］

病院改善委員会が立ち上がり、委員会での討議、各診療科とのヒアリングを行った結果、平成23年度の病院収支は大幅に改善。その背景には本学関係者の提案や分析以外にコンサルティングからの問題点の提議や具体的改善策の提案がある。よって、引き続き病院収支改善を行うに当たり、コンサルティングを入れていく。

Ⅲ　予算の概要

1. 予算編成の基本方針

（1）基本的な考え方

平成24年度決算は、大学院新研究科設置にともなう寄附行為変更認可申請の基準年度となること、病院新棟建築に向けた資金確保の強化を求められていること、大学認証評価の対象となることの三点から極めて重要である。

そこで、「消費収支と資金収支における財源の安定化」により、収支改善を図り、財政の一層の安定化・健全化を目指す。教育・研究・診療を永続的に維持しかつ内容の充実を図る為、長期的な観点に基づく財政計画を踏まえた予算編成を行い、予算による執行統制および管理を一層強化させることを基本的な考えとした。

（2）予算編成方針

［基本財務計画］

消費指標：帰属収入に見合った消費支出の額を97％以下に抑制し、累積した消費支出超過額の増加を抑制する。

資金指標：資金の安定化と健全化の指標として年度末繰越支払資金は、現預金残高30億円以上（前受金除く）の資金を留保する。

（3）収入面

帰属収入の大半を占める医療収入は、診療報酬のプラス改定による収入増を見込んだ。補助金収入は、経常費補助金の取り組みを一層強化し現状を下回ることのないよう、また寄付金収入など収入予算を過大積算しないよう予算編成を行なうこととした。

（4）支出面

財政の健全化を図る為、次の点に留意し事業計画の選択と集中を行なうこととした。

1）教育研究経費及び管理経費は、過去の実績にとらわれず見直し、経費削減を進める方針を持続すること。

2）各部署業務に直接係る経常予算については、業務の成果を評価し既定経費の見直しを図ること。

3）エネルギー料金の値上は避けられない見通しであり光熱水費は、CO_2削減のためにも節電・

節水を励行し総額増加を抑制すること。

4）医療経費は既定経費を見直し、平成23年度決算見込の医療収入額に対する医療材料の経費率を上限とし、更に抑制を行うこと。

5）人件費は、業務を検証することにより業務委託を見直し各部署での業務委託費を含んだ人件費総額の予算を抑制すること。

6）施設・設備計画は、緊急性対応・安全性確保をもとに年次計画をより厳選し、計画を再検討し、予算額を抑制すること。

2. 平成24年度予算の概要

（1）資金収入

『学生生徒等納付金収入』は、医学部収容定員増、看護学部収容定員増、看護専門学校閉校の増加減の要因を含み予算計上している。

『手数料収入』は、入学検定料を主な内容として医学部・看護学部の出願者動向を予想し予算計上している。

『寄付金収入』は、本学の教育・研究の充実やインフラ整備を図るため、募金推進本部が継続して計画する教育環境整備並びに大阪医科大学基金、昨年度新設した附属病院の整備事業の募金を予算計上した。

『補助金収入』は、主として経常費補助金と教育研究装置施設整備費補助金の採択を視野に入れた計画を予算計上した。新規事業として京都大学を主管校とした文部科学省「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」への連携参画予算を新たに計上した。国庫補助金GP関係は、がんプロフェショナルや淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム等の補助金交付が終了した為、対前年度減額計上となった。地方公共団体等補助金は、看護専門学校閉校による大阪府看護師等養成所運営費補助金が減額となった。

『資産運用収入』は、テナント等施設設備利用料、駐車場利用料、マンション賃貸料が主な内容となるが、愛泉寮跡地の一時貸地利用の収入減、新規テナントとして病院内に開設したファミリーマートの収入増があるが、全体として前年度予算比微減を予算計上した。

『資産売却収入』は、愛泉寮跡地の大阪府との等価交換額を不動産売却収入として予算計上した。

『事業収入』は、LDセンターや保育所の活動収入と治験を中心とした受託事業収入を予算計上した。新規受託事業として「タンニン類コンソーシアム受託研究」、「課題解決型医療機器の開発・改良に向けた連携支援事業（経済産業省）」の予算を新たに計上した。

『医療収入』は、平成24年度の診療報酬改定の影響を見込むとともに特定機能病院として各診療科の特徴を出すことによって医療の効率化を図り収益の確保に努めることや、病院経営改善検討委員会と医療保険管理教育委員会が調査・分析し提案した経営改善策を重点的に実行する事による増収目標予算を計上した。

『借入金』は、賞与支払い資金以外の新たな借入計画はない。新規事業費は、新たな財源の確保や既存事業の見直しなど財源の自力捻出をすることを基本的な編成内容としている。

『雑収入』は、定年退職者増分を勘案した退職金財団交付金を予算計上した。

（2）資金支出

『人件費』は、給与改訂を定期昇給のみとしベースアップ相当額は予算計上していない。賞与支給額は、前年度支給率をベースに予算計上したが今後の病院の経営改善状況により支給率を検討する予算内容となった。人材派遣法制度強化による直接雇用は、概ね完了した。

『教育研究経費及び管理経費』は、看護専門学校が閉校され医学部・看護学部の複合大学予算の編成となった。主な内容は次のとおりである。

1）医療材料費は、附属病院医療収入に対する経費率を基に予算計上した。

2）賃借費は、前年度予算比微減の編成内容となったが、新規ファイナンス・リース取引資産とを相関させた場合、実態は増加した内容となっている。

3）修繕費の主な内容は、総合研究棟外壁改修工事を予算計上した。

4）委託費は、未だ増加傾向に歯止めが利かず予算抑制ができていない。役務費については、当該職員を直接雇用したことにより人件費に転化され実質的に抑制できていない。保守費については、建物の老朽化と共に古くなった建物付属設備の保守費用の増加、教育・研究用機器及び医療機器の維持管理費用の増加、業務のIT化事業のシステム管理費用の増加である。手数料については、多種に亘る業務の外部委託（業務・作業・調査等）による予算の増加がある。主な新規項目は、附属病院高機能新病棟建設基本設計業務（各種開発申請手続業務）北園遺跡埋蔵文化発掘調査経費、北園遺跡埋蔵文化発掘調査対応工事経費などがある。

『借入金等返済』は、医学科学生生活支援制度充実のための学校債、YMCA土地建物借入金が平成23年度に完済し平成24年度予算は実質減額となっている。

『設備関係支出』は、良い教育環境を実現させる為の教育研究・設備費、教育実習用機器備品整備費、看護学部設置３年目の教具等の設備購入費を予算計上した。

医療用機器予算は、医療機器の管理強化及び計画的な医療機器の更新として「医療用機器備品選定委員会分」・「中央手術部運営委員会分」、「病院経営改善委員会分」、「高額医療機器整備費分」を予算措置した。

医療のＩＴ化の重要性・緊急性に鑑みた新オーダリングシステム更改費用を予算計上した。同システム更改により、各部門（医事業務・臨床検査業務・放射線業務・薬剤業務・看護業務・病歴管理業務等）支援システムも更改し、新たにセラポートシステムの構築や手術業務支援システムの一部を追加する予算内容となった。

『施設関係支出』は、中長期計画の視点から施設整備投資の効果と事業の必要性を検証し計画の縮小と計画の一部を次年度以降の事業に変更する予算編成内容となった。老朽化した施設改修については、大学附属病院整備など将来計画と関連付け、安全性の確保・緊急性の対応及び法令遵守を優先させ、必要最小限の範囲とした。新規大型計画として、西キャンパスに隣接する大阪府営住宅用地と看護専門学校・愛泉寮跡地の等価交換費を予算計上した。その他の新規計画は次のとおりである。看護専門学校併用施設から看護学部専用施設への改修費、電話交換機（PBX）更改費、総合研究棟ヒートポンプチラー更改費を予算計上した。

『資産運用支出』は、病院新棟建築に向けた計画的資金確保が求められ、それを担保するため資金保有量を増額した。

『その他の支出』は、看護専門学校の閉校に伴った看護師確保の施策として新奨学金貸与制度等を新設するための予算を計上した。

（3）繰越支払資金

次年度繰越支払資金は、資金指標（前受金を除く現預金残高）以上の額を留保することはできなかった。平成24年度予算編成において、帰属収入増収計画を基に限られた財源を必要とする予算単位別に資金配分した。

（4）帰属収入

法人運営に必要な消費的支出の財源となる帰属収入は、対平成23年度予算対比増額となった。主な増額要因は、看護学部学納金、愛泉寮跡地売却収入、医療収入、退職金財団交付金である。帰属収入の内、医療収入の割合は高く法人全体の事業計画の決定を左右していることに大きな変化は見られない。

（5）消費支出

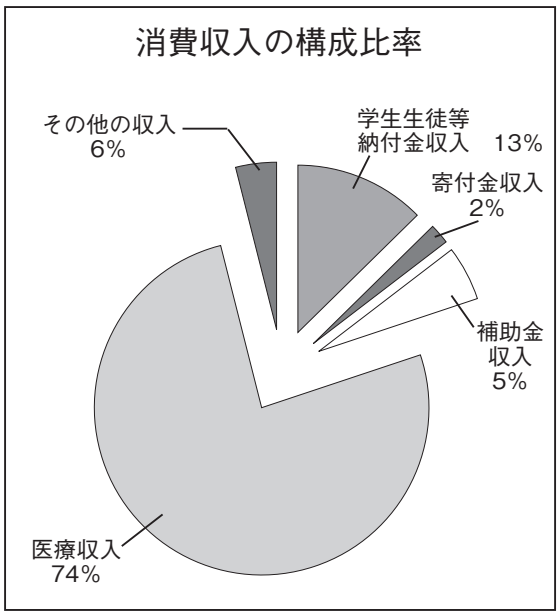
学校法人を運営して行くための人件費、教育研究経費と管理経費、施設設備の維持経費、支払い利息、資産の減価償却額など純財産を減少させる支出予算の総額は、対前年度予算対比で増加し充分な支出抑制ができていない内容となった。

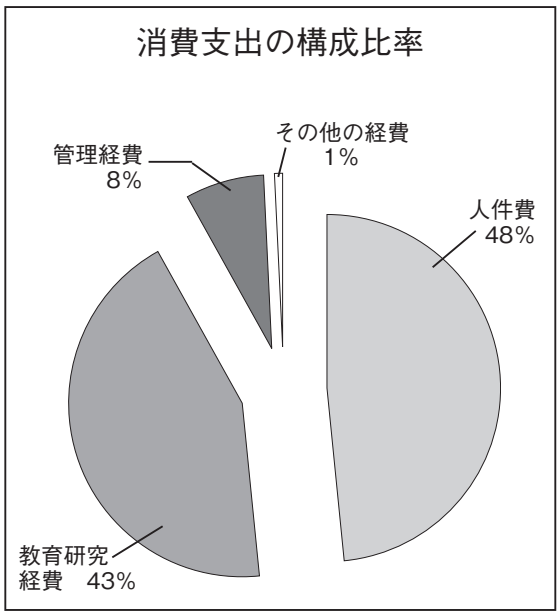
平成24年度消費支出予算は、若干改善傾向の伺える予算内容であるが、財政の健全化を早期に実現できるよう、今後も継続して経費の無駄をなくす目標設定を行い、更に支出抑制が実行できるよう法人全体が一丸となった取り組みが必要される。

（6）帰属収支差額

法人が黒字か赤字かを判断する目安である帰属収支差額については、単年度の帰属収入で消費支出を賄うことができる財政状況となる見通しである。

しかし、累積した消費支出超過の改善に直接繋がる予算編成内容ではなく、今後も引続き収入アップを図る努力と大幅な経費削減による収支の改善が要求される内容となった。





平成24年度　収支予算

消費収支予算

（単位：千円）

消費収入の部				消費支出の部			
科目	平成24年度予算額	平成23年度予算額	増減(△)	科目	平成24年度予算額	平成23年度予算額	増減(△)
学生生徒等納付金収入	4,070,075	3,880,360	189,715	人件費	14,807,107	14,712,727	94,380
手数料収入	200,317	174,497	25,820	教育研究経費	13,233,616	13,127,146	106,470
寄付金収入	625,791	524,632	101,159	管理経費	2,336,563	2,144,716	191,847
補助金収入	1,654,111	1,560,112	93,999	借入金等利息	56,970	73,297	△16,327
資産運用収入	217,999	223,382	△5,383	資産処分差額	53,640	51,190	2,450
資産売却差額	636,250	0	636,250	徴収不能額	3,450	16,810	△13,360
事業収入	388,551	293,488	95,063	予備費	300,000	220,800	79,200
医療収入	24,177,144	23,574,059	603,085				
雑収入	566,499	332,485	234,014	消費支出の部合計	30,791,346	30,346,686	444,660
帰属収入合計	32,536,737	30,563,015	1,973,722				
基本金組入額合計	△2,527,000	△1,401,400	△1,125,600				
消費収入の部合計	30,009,737	29,161,615	848,122	当年度消費収支超過額	△781,609	△1,185,071	403,462

資金収支予算

（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科目	平成24年度予算額	平成23年度予算額	増減(△)	科目	平成24年度予算額	平成23年度予算額	増減(△)
学生生徒等納付金収入	4,070,075	3,880,360	189,715	人件費支出	15,130,987	14,666,607	464,380
手数料収入	200,317	174,497	25,820	教育研究経費支出	11,614,826	11,567,586	47,240
寄付金収入	597,991	514,632	83,359	管理経費支出	2,182,073	2,013,886	168,187
補助金収入	1,654,111	1,560,112	93,999	借入金等利息支出	56,970	73,297	△16,327
資産運用収入	217,999	223,382	△5,383	借入金等返済支出	1,488,470	1,238,720	249,750
資産売却収入	805,280	10,000	795,280	施設関係支出	1,206,900	216,043	990,857
事業収入	388,551	293,488	95,063	設備関係支出	1,967,306	1,278,859	688,447
医療収入	24,177,144	23,574,059	603,085	資産運用支出	1,949,042	104,368	1,844,674
雑収入	566,499	332,485	234,014	その他の支出	2,845,918	2,440,271	405,647
借入金等収入	500,000	1,000,000	△500,000	予備費	300,000	220,800	79,200
前受金収入	2,526,290	2,275,140	251,150				
その他の収入	5,437,164	4,074,438	1,362,726				
資金収入調整勘定	△3,690,575	△5,964,992	2,274,417	資金支出調整勘定	△3,482,626	△3,595,527	112,901
前年度繰越支払資金	5,460,000	4,451,299	1,008,701	次年度繰越支払資金	7,650,980	6,173,990	1,476,990
収入の部合計	42,910,846	36,398,900	6,511,946	支出の部合計	42,910,846	36,398,900	6,511,946

注：資金収支･消費収支両予算に共通する科目で予算額に差異のある科目については下記の理由による。

1.「寄付金」には、資金収支上の寄付金のほかに、消費収支予算では現物寄付金が計上されている。

2.「人件費」には、支払給与のほかに、資金収支予算では退職金支出額が計上されているのに対し、消費収支予算では退職給与引当金繰入額が計上されている。

3.「教育研究経費」「管理経費」には、資金収支予算上の支払経費のほかに、消費収支予算ではそれぞれに減価償却額が計上されている。

第8回　臨床研修指導医養成講習会開催

臨床研修の指導体制の充実を目的として今年度も臨床研修指導医養成講習会を開催しました。チーフディレクターに聖路加国際病院の福井次矢病院長、チーフタスクフォースには高知医療再生機構の倉本秋理事長、特別講演として九州大学医学教育学吉田素文教授といった日本の医学教育の中心におられる先生方の企画・運営により執り行いました。カリキュラムプランニングを中心にした構成で進められ、16時間すべてのプログラムを修得された学内及び協力型臨床研修病院から参加された37名の先生方に本院および厚生労働省から修了証書が授与されました。

1．開催日時　　平成24年２月25日（土）午前９時30分～26日（日）午後５時00分
（実質的な講習時間　16時間）

2．場　　所　　新講義実習棟７階

3．運営組織（実施担当者）

実施責任者	木下　光雄		タスクフォース	近藤　敬一郎
チーフディレクター	福井　次矢	聖路加国際病院 病院長	〃	寺﨑　文生
コ・ディレクター	米田　　博		〃	西本　泰久
〃	河野　公一		〃	亀谷　英輝
チーフタスクフォース	倉本　　秋	高知医療再生機構 理事長	〃	臼田　寛
コンサルタント	吉田　素文	九州大学 医学教育学教授		

4．参加受講者

横山　和武	垣田　朋子	山名　秀典	西田　司	垣田　謙
澤井　俊幸	櫟原　崇宏	西川　周治	矢野　雅浩	山本　誠士
右梅　貴信	恒松　一郎	荻原　享	朝井　章	土居　ゆみ
川端　信司	岩本　充彦	井上　仁	宮本　好晴	大植　慎也
日外　知行	藤田　太輔	植木　麻理	伊藤　康志	田中　慶太朗
星賀　正明	馬場　一郎	宗宮　浩一	梅垣　修	安田　稔人
内山　和久	南　敏明	植田　直樹	林　道廣	河野　龍而
		野村　栄治		杉山　哲也

■看護学部FD委員会活動報告

看護学部では全専任教員を対象に、学部内で半日のFD研修を実施しています。平成23年度は第１回「看護学部が目指す教育をGP課題に」、第２回「看護学部教育の充実に向けて」というテーマでワークショップ（WS）を実施しました。

第１回WS（平成23年９月８日）は、１）GPについて教員が共通認識を持ち、外部資金を獲得するためには何が必要であるかを理解する、２）課題を元に教育プログラムを考え、外部資金を獲得できる形にするという作業を通じて今後の教育活動に活かす、の２つを狙いとして、本学GP評価委員会委員長米田 博 教授による基調講演「GPと医学教育改革」と、これからGPを計画できる可能性がある課題について４グループに分かれてのディスカッション［1.学生の特質を踏まえた職業人教育、2.国際交流、3.離島・僻地における看護実習、4.卒後キャリア形成］を行いました。

第２回WS（平成24年３月８日）では、看護学部教育理念達成のための教育の検討を行うことを目的とし、看護学教育WS（千葉大学大学院看護学研究科主催・文科省後援）報告につづいて、これまでの本学部におけるFD研修、学科会議、看護学部教育あり方検討委員会などの議論の経過を確認し、それらを踏まえて設定した４つの課題［1.本学の理念を反映させた教育のあり方、2.離島・僻地実習の実行案、3.本学部生の課題を解決するための方策、4.高校までの理数基礎力不足への対応］についてグループごとに具体的な検討を行いました。

今後はこれらの結果を活かして教育を充実させていくことを目指しています。また、学部が新設されてまだ２年という状況から、学部全体としての教育への取組を主体にFD研修を行ってきましたが、来年度からはこの後の大学院設置も鑑み、個々の教員の教育力を磨く取組みとともに、教員の研究できる環境の整備・資金の獲得および、研究力・研究指導力をつけるFDにも取組む必要があると考えています。

看護学部FD委員会
看護学部　教授　前田　環（病理学担当）

■看護実践研究センター活動報告・研究活動交流会

３月８日（木）17：00～18：30、23年度看護実践研究センター活動の総括として、活動報告・研究活動交流会を看護学部棟にて開催いたしました。

活動報告としては「看護研究セミナー」（９月）と高槻市後援「認知症サポーター養成講座」（11月）の概要を発表いたしました。研究活動交流会では、学部共同研究費の助成で遂行している研究に関する報告を口演２題、示説10題で行いました。昨年度の反省から、勤務が終了後に参加して頂ける時間帯に設定し、意見交換が活発に行われるように場所を多目的室に示説を設けました。まだまだ寒い季節なので外部の方が参加されるかどうか心配しておりましたが、病院等から16名にご参加いただきました。年度の締めくくりとして研究の進捗状況にかかわらず発表をしましたので、経過報告も含めた研究発表でしたが、活発な意見交換をすることができました。

この様な交流の機会を今後も継続することによって、学外施設や地域の皆様との関係を深め、看護実践研究センターをより発展させていくように努力していきたいと思います。この場をお借りしてご参加いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

看護実践研究センター長
看護学部　教授　田中　克子（成人看護学（慢性期）担当）

＊＊＊　がん患者様・ご家族様の心あたたまる場をめざして…　＊＊＊
第１回　大阪医科大学附属病院　がん患者サロン『ひだまり』開催のご報告

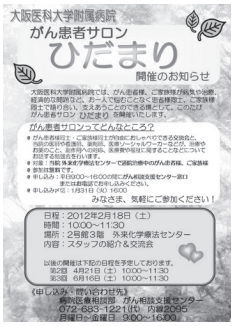
看護部　がん看護専門看護師　上田　育子

当院は三島圏域のがん診療連携拠点病院に指定されており、がん患者様･ご家族様を支援するために、多職種協同のもとで、さまざまな取り組みを行っています。このたび、その取り組みの一つとして、がん患者サロン『ひだまり』を開催いたしました。当院のがん患者サロンは、１つ目にがん患者様、ご家族様が病気や治療、経済的な問題などについて患者様同士、ご家族様同士で語り合い、支えあうことができる機会をつくること、２つ目に、医師や看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカーなどが、治療や薬剤のこと、副作用への対応、医療費や福祉に関することなどについて勉強会を行い、がん患者様・ご家族様が必要な情報を得ることや他患との交流を通してQOLを高めることを大きな目的としています。さらに、さまざまな医療従事者が身近で支援していることを患者様・ご家族様に実感していただく場としても、とても大切な機会であると思っています。『ひだまり』という名前は、陽があつまるところという意味合いから、がん患者様・ご家族様の心があたたまる場になればという願いを込めて名づけました。

2012年２月18日（土）、構想から約半年、ようやく開催の日を迎えることができました。当日の朝、高槻市には雪が舞っていて、とても寒い朝になりました。スタッフはみな、患者様・ご家族様が無事にご来院されるかを一番に心配しておりました。残念ながら悪天候や体調不良で欠席された方もおられましたが、患者様13名、ご家族様６名、計19名の方が参加されました。

10時に会が始まった時には雪は止んでいて、窓からは暖かい陽がさしこみ、心地よさが感じられるようになっていました。化学療法センター医師吉田先生、看護部 小野看護部長をはじめ、薬剤師、臨床心理士、医療ソーシャルワーカー、看護師それぞれが挨拶をさせて頂き、その後、４つのグループで自由にお話いただく交流会を行いました。交流会は約１時間でしたが、参加された患者様・ご家族様は泣いたり笑ったりしながら、絶え間なくお話されていました。帰りには「来てよかった。」「同じ病気の仲間と話ができて励まされた。」などと、多くの方からご好評をいただきました。またアンケートでは、参加者全員が「次も参加したい」と答えてくださっていました。

化学療法センター医師



大阪医科大学附属病院
がん患者サロン
ひだまり
開催のお知らせ

大阪医科大学附属病院では、がん患者様、ご家族様が病気や治療、経済的な問題など、たった一人で悩むことなく安心様様士と、ご家族様同士で語り合い、支えあうことができる場として、このたび がん患者サロン ひだまり を開催いたします。

がん患者サロンってどんなところ？

- がん患者様同士、ご家族様同士が気軽におしゃべりできる交流会。
  内容の紹介や看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカーなどが、治療やお薬のこと、副作用への対応、医療費や福祉に関することなどについてお話する場合もあります。
- 対象：当院 **外来化学療法センターで通院治療中のがん患者様**、ご家族様
- 参加は無料です。
- 申し込み：平日9:00～16:00に**がん相談支援センター**迄（または**お電話**でお申し込みください。
- 申し込み受け：1月31日（火）16:00

みなさま、気軽にご参加ください！

日程：2012年2月18日（土）
時間：10:00～11:30
場所：2号館3階　外来化学療法センター
内容：スタッフの紹介＆交流会

以後の開催は下記の日程を予定しております。
第2回　4月21日（土）10:00～11:30
第3回　6月16日（土）10:00～11:30

（申し込み・問い合わせ先）
藤内医療相談部　がん相談支援センター
072-683-1221(代)内線2555
月曜日～金曜日　9:00～16:00

ご案内のリーフレット

『ひだまり』開催に至るまでの期間は、携わるスタッフ皆がなんとかいい会にできるようにとの思いで、会場の準備やグループ編成など何度もミーティングを重ねて進めてきました。ご参加いただいたがん患者様・ご家族様に喜んでいただいたことは大変うれしく、今後もさらにいい会になるように取り組んでいきたいと思っています。今後も２ヶ月に１回の開催を予定しておりますので、皆さまのご指導・ご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

看護部長

中山国際医学医療交流センター

台湾・台北医学大学（Taipei Medical University）との国際交流協定の締結について

中山国際医学医療交流センター長　**河野　公一**

平成24年３月１日、台北医学大学副学長Chin-Hua Su教授、医学部長Chii-Ruey Tzeng教授、国際交流部長のNai-Wen Kuo教授を迎えて国際交流協定の調印式が行われました。

台北医学大学は1960年に創立され、首都台北近郊に医学・歯学・薬学・看護学など７つの単科大学、13の学部を有する台湾有数の医療系総合大学です。2011年のQSアジア・トップ100医科大学にもランクされており、特に医学部は３つの付属病院（合計3,000床）を有し学生数は医学部・大学院を合わせて1,700名が学んでいます。

調印式は本学竹中洋学長、中山太郎本学国際医学医療交流センター顧問（元外務大臣）、教育センター宮本学准教授、木野昌也北摂総合病院院長、また台北医学大学を卒業し神戸東和医院院長で本学４年生（現５年生）鄧傑之君の父君鄧尚昇先生（今回の調停に当たり大変お世話になりました）らの出席のもとに行われました。協定書には学部学生、大学院生およびレジデント、教職員らの相互交流に関する大学間の覚書や学部学生の選択臨床実習などに関する具体的な取り決め事項が含まれています。

Su副学長らは翌３月２日の本学卒業式にも参列され、 また謝恩会では海外の交流大学を代表して、卒業生への祝辞を述べていただきました。一行は３日間の短い滞在でしたが、学内案内では本学の教育施設や附属病院の充実ぶりには感心されることしきりで、今後の交流に期待が膨らみました。

今後、協定書の締結を契機に両大学の国際交流がますます盛んになることが望まれます。

中国医科大学、タイ・マヒドン大学および韓国カソリック大学医学部学生の本学研修について

中山国際医学医療交流センター長　**河野　公一**

平成24年１月16日から１月27日まで中国医科大学の５年生２名（Lan Ling君とLi Chen Guan君）、平成24年２月８日から２月24日までタイ・　マヒドン大学の４年生３名（Patarapol Withayasakpunt 君、Ngamsiree Sukprasertさん、Juthamas Srisitvivichさん）、また、平成24年３月５日から３月30日まで韓国カソリック大学医学部から６年生３名（Jang Yong Jun君、Jo Bum-Seak君、Jeong Ye Seul さん）がそれぞれ相互交流協定に基づいて、本学附属病院および北摂総合病院、三島救命救急センターなどで研修を受けました。

中国医科大学の学生は２週間と短いながらも各科で積極的に研修に参加し、とても充実した時間を過ごしたようです。タイ・マヒドン大学の学生は去年の洪水の影響から日程を遅らせての参加となりました。 韓国カソリック大学の学生は４週間の長期に渡る実習でしたが体調も崩さず研修を修了しました。

平成24年１月から３月まで途切れることなく留学生の研修受け入れが続き、ご協力いただいた先生方には大変お世話になりました。改めてお礼を申し上げます。

※各国学生の感想文は中山国際医学医療交流センターのホームページに掲載しています。
http：//www.osaka-med.ac.jp/deps/nicmc/index.html

海外春期短期研修生の派遣について

中山国際医学医療交流センター長　**河野　公一**

本学では国際交流推進の一環として、医学部学生・教員の海外研修を積極的に行っていますが、今年３月から５月にかけて交流協定などに基づき下記の各大学に本学学生を派遣しました。

❖米国ハワイ大学PBLワークショップ
1　研修期間　平成24年３月11日～３月16日
2　派遣学生　３年生２名、４年生５名　光田知世さん（３年生)、谷口舞子さん（３年生)、鄧傑之君（４年生)、高岡大介君（４年生)、 東堂まりえさん（４年生)、長谷川幸世さん（４年生)、中山奈々さん（４年生）

❖中国医科大学臨床実習
1　研修期間　平成24年３月12日～３月23日
2　派遣学生　４年生５名　神部浩輔君、滝本かきのさん、引石惇仁君、野呂恵起君、和田将輝君

❖タイ・マヒドン大学国際微生物学・免疫学コンペティション
1　研修期間　平成24年３月17日～３月21日
2　派遣学生　２年生１名、４年生２名　後藤祐子さん（２年生)、城玲央奈さん（４年生)、松尾知彦君（４年生）

❖タイ・マヒドン大学シリラート病院臨床研修
1　研修期間　平成24年３月12日～４月６日
2　派遣学生　６年生３名　児玉紘幸君、冨岡圭次郎君、黒田実紗子さん

❖韓国カソリック大学臨床研修
1　研修期間　平成24年４月２日～４月27日
2　派遣学生　６年生４名　西田浩孝君、木曽翔平君、浅香明紀君、石丸紗也佳さん

❖米国ハワイ大学院外選択臨床研修
1　研修期間　平成24年４月30日～５月25日
2　派遣学生　６年生１名　鈴木雅貴君

＊学年は派遣時の表記です

以下に春期研修内容について、米国ハワイ大学PBLワークショップに参加した鄧君, 中国医科大学臨床実習に参加した野呂君とタイ・マヒドン大学国際微生物学・免疫学コンペティションに参加した城さんに感想を述べていただきました。(他の19人の感想文は中山国際医学医療交流センターホームページに掲載予定です。)

http：//www.osaka-med.ac.jp/deps/nicmc/index.html

ハワイ大学春季研修を終えて

4年生（現5年生）　**鄧　傑之**

この度ハワイ大学の Learning Clinical Reasoning Workshopに参加させていただきました。今回のハワイ大学研修では主に医療面接に重点を置いたプログラムでした。参加者は大阪医科大学のほかに、慶応義塾大学、佐賀大学、高知大学など日本全国各地から来ていて、韓国の釜山大学からの参加者もいました。内容としては、現地のsimulated patientに英語で医療面接を行ったり、アメリカのphysical exam skillsを学んだり、またPBL、CREで臨床推論の考え方を学ぶなど大変充実した一週間でした。私は4年生の時に、本学のOSCEで医療面接の練習をしたので、時期がちょうどよかったと思います。

英語での医療面接の打ち合わせをしているところ

研修を終えて印象に残ったのは英語で行われる医療面接でした。simulated patientと呼ばれるアメリカ人の模擬患者を相手に英語で問診し身体診察を7分で終わらせて、さらにその様子は一人ひとりビデオで録画され、参加者全員で観てフィードバックをするというものでした。大学のOSCEで行った日本の医療面接では患者さんに対する“共感”がメインでしたが、ハワイでは患者さんとの話の中で可能性のある病気を頭の中で考えながら話を進めていって、医療面接の最後に『～が考えられます』などと言ってから退室するという形式でした。慣れない英語で模擬患者さんを目の前にした医療面接ということでかなり緊張しましたが、2回チャンスがあって2回目は1回目よりもリラックスして終えることができたので、自分に自信が持てるようになりました。

もう一つ印象に残ったのが、同じプログラムに参加した他大学の学生たちです。他大学の参加者は全員高い英語力はもちろんのこと、高い学力、高いモチベーションを持っていました。今まで大阪医科大学で普通の学生生活を送ってきた私にとって、彼らの姿は信じられませんでした。このWSを終えて、私が卒業して医師になるまでのあと2年間でなんとかして彼らのようになりたいと思うようになりました。

今回ハワイに行ってたくさん勉強し、そして他大学の学生に刺激されて日本に帰国し、これ以上の人生を変えるイベントはなかなか体験できるものではありません。このような素晴らしい機会を与えてくださった河野教授、花房教授、米田教授、中山センターの方々、PA会の皆様、ハワイ大学で私たち学生の受け入れをしてくださったKochiさん、Sakai先生をはじめとする先生方に心から感謝致します。

中国医科大学での研修を終えて

4年生（現5年生）　**野呂　恵起**

今回私は中国東北部、遼寧省の省都、瀋陽にある中国医科大学で研修させて頂きました。2週間という比較的短い期間ではありましたが神経内科、内分泌科、循環器科、小児科といった4つもの科を回ることができ大変充実した日々を過ごすことができました。研修を終えて私は、より多くの人に中国医科大学での研修を受けることをお勧めしたいと思いました。その理由は2点あります。

まず第一に症例数とその多様性です。人口13億人の中国、その東北部の基幹病院である中国医科大学付属第一病院には、他の病院から紹介されてくる患者さんが大勢います。外来受診者数は1日約5,000人、総病床数は2,000床にも達します。そのため2週間という期間でも、外来や病棟を含めるとかなりの数の

神経内科でMRI画像を読影しているところ

症例を見ることができました。CT、MRI、PETといった設備も充実しており、画像診断の指導も受けることもできました。また中国医科大学付属第一病院では電子カルテ化がなされており、学びたい疾患を先生に伝えるとその症例のカルテを見せて下さり、臨床経過などを詳しく説明して下さいました。

そして第二に学ぶ意欲が掻き立てられるという点です。中国医科大学の学生は臨床実習において、数人の入院患者を担当します。毎日午前中に入院患者の問診や診察などを行い、午後に指導医と治療方針などについて話し合いが行われます。学生は患者さんやその家族からの信頼も厚く、病状、検査結果、処方薬などについての質問も随時受け付けています。責任の重さのためか、学生は毎日夜遅くまで自学自習に励みます。病棟や教室で学生が熱心に勉強している様子は、私にとって非常に刺激的な光景でした。

言葉や文化などの違いから、戸惑う所も多々ありましたが、英語そして時には中日辞典を片手に熱心に指導して下さる先生方のお陰で、大変満足のいく研修を受けることができたと思っています。また滞在中は現地の学生達が瀋陽の名所の案内や食事に連れて行ってくれて、とても良い思い出もたくさん作ることができました。

最後になりましたが、このような貴重な経験をさせて頂く機会を与えて下さった、河野教授、花房教授、米田教授、 中山国際医学医療交流センター やPA 会の皆様、そして中国医科大学国際交流処の王先生、劉先生、並びに関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

神経内科でお世話になった何主任教授とVIP 外来室で

タイ・マヒドン大学国際微生物学・免疫学コンペティションに参加して

4年生（現5年生） **城　玲央奈**

3月18日から20日までタイ・マヒドン大学シリラート病院にて開催された SIMIC（Siriraj International Microbiology and Immunology Competiton） に参加させていただきました。

このSIMICと呼ばれる大会は今年が初開催であり、マヒドン大学医学部の学生が発案し、２年間の構想を経て実現させた大会です。運営や企画は全てマヒドン大学の学生がボランティアで行っています。３日間にわたるSIMIC は各大学のチームがトーナメント形式で知識を競う大会はもちろんのこと、観光やGroup Activitiesなど現地の学生やアジア各国から集まる学生との交流を深めるイベントが盛りだくさんでした。

シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシアの学生と抗生物質の濫用を防ぐために医学生としてできることを話し合っているところ

残念ながら大阪医科大学のチームは初戦敗退という残念な結果に終わってしまいましたが、アジアでトップレベルの学生たちが集う場に参加できたことは私にとってかけがえのない経験となりました。参加していたほとんどの学生が英語は当たり前に流暢であり、感染症の勉強では病気だけでなく疫学についても深い知識と考察をもっています。彼らの国では、ただ“知っている”だけでなく、その知識を医師として人を助けるためにどう使っていくのかを前提に置いた教育がされているのだと感じました。このSIMICで得た刺激は今後の私の進む道を良い方向に導いてくれると確信しています。

最後に、私たちを大学代表として送り出してくださった河野教授、引率してくださった津田先生、手続きを手伝ってくださった中山センターの松本さん、そして素晴らしい大会を開催し私たちを歓迎してくださったSIMICの運営委員会の学生の皆さんに感謝します。

平成23年度第２回JICAベトナム国別医療リハビリテーション研修

リハビリテーション医学教室　教授　**佐浦　隆一**

独立行政法人国際協力機構（JICA）より依頼のあった標記の研修を昨年の第１回研修に引き続いて、平成24年2月27、28日に行いました。

平成18年1月から平成20年12月までJICA草の根技術協力事業としてチョーライ病院で実施された「地域リハビリテーション及び障害当事者エンパワーメントを通した身体障害者支援事業」プロジェクトの成果を基盤として、チョーライ病院の医療リハビリテーション技術をさらに発展させるとともに、それらの技術を南部地域の他の医療機関に広く移転していくことを目的として、この研修は計画されています。

義肢装具採型のデモンストレーションを興味深く見学するJICAベトナム人研修員

今回はJICA大阪国際センターが中心となり研修が実施されましたが、前回の研修が好評であったため、兵庫県、大阪府の医療機関や神戸大学などで行われる研修プログラムのうち大阪府で実施される研修のプログラム作成は大阪医科大学が担当し、大阪医科大学附属病院では、特に前回好評であった「日本のリハビリテーション医療の概要」に関する講義だけでなく、義肢装具の採型実習、嚥下食（嚥下障害者用の調整食）の試食と嚥下障害に関する講義、最新のロボット技術を応用したロボットスーツHAL福祉用の試用などリハビリテーション医療の基礎から先進的な取り組みまで幅広く実感できる研修プログラムを用意しました。

研修員はベトナム国南部地域の病院関係者６名（理学療法士１名、医師４名、看護師１名）でしたが、２日間にわたり病院内やリハビリテーションセンターの見学、「日本の医療リハビリテーションの概要」などの講義と義肢装具や嚥下障害のリハビリテーションの体験や実習を行い、最後に修了証を授与して無事に研修を修了しました。

ハワイ大学ワークショップ（Clinical Teaching Workshop）に参加して

脳神経外科学教室　講師　**川端　信司**

はじめに今回のワークショップ（WS）参加をサポートいただきました中山国際医学医療交流センターの皆様ほか、関係諸先生方にはこのような機会を与えていただきましたこと、感謝申し上げます。

今回参加したのは、現在大阪医科大学で取り組んでいるPBL、OSCEなど私が学生の頃にはなかった医学教育の源流ともされるWSで、ハワイ大学主催の医学教育プログラムの一部である。ここには本学学生も例年数名の医学生が学びに来ている。今回のコースは、実践的な患者診察を如何にうまく“最近の”医学生・研修医に指導するのか？が主題である。参加者は18名、うち11名は日本からで、残る７名が韓国からであった。

教育する側に対して教育のやり方を教育する場として始まったのがこのWSということである。先輩の働く姿をよく見聞きし、深夜まで病棟に詰めて、夜更けまで医学書を読んで、朝には少し早く出勤してわからないことはまた勉強すればよい、と私は常日頃そう思ってきた。PBLとはどういうものか？そして実際にはどう進めていくのか？そのあたりから始まった今回のWSであったが、本学ではすでにPBLは導入され、賛否はあるものの教員・学生が皆これに溶け込んでいるという現状がある。PBLは一つの教育の方法であって、学生を中心に学習する側の意欲を高めるというコンセプトから成り立ち、決して“楽に学ばせよう”というものではないとのことである。このセクションの結論はこうなる。

＜最近の指導者（先生・上級医）は、最近の学習者（学生・研修医／若手医師）を指導する準備が整っていない＞

３日目には、実際の医学生・模擬患者が我々の相手をしてくれ、それを録画してさらに午後からビデオ検証するといったカリキュラムになっていた。

今回のWSを通じて私の指導者としての技量や考え方が全く変わっていったわけではない。ただしかし、自分の出会ってきた現実（受けてきた指導）、そして自分が思い描いてきた理想の指導者が今流の教育、最近（いま）の医学生・研修医には全く当てはまらない昔話ということだけは押さえておきたい。そこには指導者としてもっともっと学ばなければならないものがある、そう感じた３日間が終わろうとしている。機会があればより多くの指導者、特に若手・中堅の指導者に是非参加していただきたい。研修医として働く病院の指導が、いままで学生時代に受けてきた指導と全く異なる（古い）ものであれば、その世代にとって“悪い研修環境”と言われてもしかたがない。大学病院とて医学生のみならず、研修医・若手医師への指導対応も時代に合わせて変革していく必要があるのかもしれない。

講義風景

※本WS参加記全文は中山国際医学医療交流センターのホームページに掲載しています。
http://www.osaka-med.ac.jp/deps/nicmc/index.html

平成23年度卒業証書・学位記授与式

日　時：　平成24年３月２日（金）13：00～
場　所：　高槻現代劇場　中ホール
　　医学部卒業生　98名

■平成23年度　医学部医学科　卒業式　告辞

学長　**竹中　洋**

第61期生の諸君、ご卒業おめでとうございます。
また、保護者の皆様にも心よりご子息、ご息女のご卒業をお慶び申し上げます。
大阪医科大学にとりまして、卒業式は大変重要な学事でございます。関西医科大学・山下敏夫学長先生始め、ご列席頂いておりますご来賓の皆様に教員並びに卒業生を代表して御礼申し上げます。特別ご来賓として、学術と学生交流の調印式を昨日行いました台北医学大学代表の諸先生をこの場を借りてご紹介申し上げます。

I would like to introduce you to our guests from Taipei Medical University, Taiwan.
Vice President, Professor Ching-Hua Su,
Dean of College of Medicine, Professor Chii-Ruey Tzeng,
Dean of International Office, Professor Nai-Wen Kuo,
Thank you for your attendance at the graduation ceremony of Osaka Medical College.
It is our great pleasure and honor to have the signing for the academic and educational exchange between Taipei Medical University and our college, yesterday.
We hope this exchange will continue forever,
Thank you again for your visit on this memorial day.

平成23年３月11日の東日本大震災は記憶に新しいところであります。多くの尊い命が失われたことは大変残念なことですが、その後の検証で「科学の敗北」や「技術の敗北」が指摘をされています。また、決定することが出来ない政治や日本の運営管理システムへの失望感は些かの揶揄を持って、世情で語られています。加えて「税と社会保障の一体改革」は今後の日本の方向性を見極める上で、大きな国民的課題となっています。諸君は社会保障の中で、医療が大変大きな役割を演じていることを承知されていると思います。

さて、本日の卒業式にあたり「医学と医療について」少し私の考えを述べてみたいと思います。

我が国の医学教育は文部科学省が指針として定めた「医学教育のモデル・コアカリキュラム」に従って、各大学医学部が工夫を重ねたカリキュラムを作成し、ここ10年余運営されております。本学では、入学直後に教養教育（総合教育）が始まり、橋渡し的な準備教育を経て２年次では集中的な基礎医学の教育が為されています。諸君も厳しい単位認定に悩まれたと思います。３年生から４年生にかけては社会医学系と臨床医学系の教育が行われています。本学では教育手法として広く「PBLチュートリアル」を取り入れ、全国の医学に先駆けて、積極的に「課題に沿って自ら学び、思考する」ことを大切な教育指針として示してきました。５年生の５月からは病院実習が略46週あり、基本的臨床能力とコミュニケーションスキルの獲得が目的とされています。この本学の教育は数年毎に検証され見直しが為されており、今後も進化を遂げるものと確信をしています。しかし、医学部で学ばなければならない科学的事実や生命科学の知識量は膨大であり、教育上の大きな課題となっています。必然的に医療に対する教育的配慮は卒後教育に委ねられています。

しかし、日々変化する医療は医学の予想を超えることがあります。例えばこの４月から実施される平成24年度の診療報酬改定では、将来の日本の医療の方向性を決める大きな変化が３つありました。診療報酬とは「医療行為の経済的評価」と考えて頂ければいいと思います。

その第一は医師の技術度が手術において正式に認められたことであります。具体的には卒後８年以上経過し、専門医となった医師が執刀することが妥当と考えられる手術料が引き上げられました。外科系の学会が自主的に運営している外科系学会保険連合が作成した手術技術評価試案が示した技術評価が基本的に診療報酬に反映したことになります。

第２は病院機能の評価です。救急や産科・小児科など医療崩壊の囁かれる現場にその実態に合わせて診療報酬が案分されることになりました。地域医療連携や感染症対策も同様です。病院が社会のニーズに併せて投資をし、組織が変更することに日が当てられた訳であります。この流れは、機能を同じくする病院群で個別化差別化が今後進むことを示しており、実態に裏付けされた資格しか病院評価の対象にならないことを示しています。

最後の点は、混合診療として先進医療で評価されていた、手術用ロボットダヴィンチが泌尿器科領域の手術で保険収載されたことです。ダヴィンチは「安全で確実な外科的切除を鏡視下に行う」為の医療機器システムで、アメリカで開発をされました。先進医療では10を超える分野で登録がされています。今後この新しい技術が外科系診療科で我先に実施されることが予想されます。多分、数年後には技術論として医学部学生の必修科目になることは間違いありません。

正に諸君は日本の医療で、Dr's feeが認知されたこと「医師の技術度評の定着」、「病院機能評価の診療報酬への反映」（Hospital feeの誕生です）並びに「安全と安心の医療機器の導入」と大きく方向性を変える年に、本学を旅立たれ、医学の学びから医療の実践の世界に進まれます。大阪医科大学医学部は「学を離れて医はない」を建学の精神としております。医療が如何に進歩を遂げようとも、解剖学、細胞生理学、病理学、診断学、放射線医学などの総合的知識とそれに基づく臨床的探究心がなければ、手術適応も術式も科学的に選択できないことを、付け加えたいと思います。

諸君が10年後20年後の我が国の医学と医療の担い手として花開かれることが我々教職員の願いでありますことを申し上げ、第61期生の旅立ちに際しての学長告辞と致します。

平成23年度　看護専門学校卒業式・謝恩会

平成24年３月６日（火）

前日までの悪天候は何処へやら…、卒業式当日は雨も上がり13時から看護学科27回生60名の晴れの卒業式、そして看護専門学校にとりましても最後の卒業式が挙行されました。

卒業式には植木理事長を始め学内外から多くの来賓の方をお迎えしました。高槻市保健福祉部理事西岡様に濱田市長からの祝辞を代読していただき、竹中学長や木下病院長からも温かい祝辞をいただきました。小野看護部長からは美しいガーベラの花束を頂戴致しました。

答辞では総代が３年間の教育課程を振り返り、友人や患者さま、学校や臨床の多くの先生方との出会いから看護師を目指して大きく成長できたことや、辛く悲しい時にも家族をはじめとする皆に支えられてきた事、今後の夢と抱負も含めて感謝の意を表しながら涙をこらえて堂々と述べてくれました。

夕刻からは、たかつき京都ホテルで謝恩会が開催されました。卒業式の白衣姿とは打って変わり、袴あり、振袖あり、ドレスありの晴れやかな変身ぶりでした。お世話になった講師の先生や、看護部長、臨床指導者の方々と、思い出を語り合ったり、メッセージをいただき、和やかな感謝のひとときを持つことができました。

看護専門学校最後の学年としてのプレッシャーを感じながらの３年間であったのかも知れません。

「生き方として看護を選ぶ」…本校のコンセプトや基本理念に基づいて３年間の看護基礎教育課程を終えることが出来たことを自信にして、一人ひとりの看護へ熱き思いを胸に、思い切り羽ばたいてくれることを願っています。

平成24年度　医学部　新入生学外合宿

平成24年度の「第17回　医学部新入生学外合宿」が、「ピアザ淡海」（滋賀県大津市）、「ラフォーレ琵琶湖」（滋賀県守山市）において、１年生116名、教職員約30名の参加のもと、４月５日（木）～７日（土）の２泊３日にわたり実施されました。

１年生達は、与えられた課題に対するグループ討議、救急蘇生座学・体験学習、レクリエーション、懇親会等を通じてお互いの親睦を深めました。

平成24年度　看護学部　新入生学外合宿

看護学部第３期生の新入生学外合宿が「VIPアルパインローズビレッジ」（兵庫県篠山市）において、４月６日（金）～７日（土）の１泊２日で実施されました。

今回の研修は新入生88名に加え、看護学部の２・３年生12名も新入生をサポートするために教職員とともに参加し、３つの研修「信頼関係を築くアクティビティ」、「在学生による大学生活紹介及び交流会」、「救急蘇生とAED講習」を通してお互いの親睦を深めました。

丹波篠山の豊かな自然に囲まれた施設の中で、看護学部の在学生とライフサポートクラブを中心とした医学部生の参加・協力により、結束力や意識を高め合う有意義な合宿となりました。

平成24年　医学部　白衣授与式

日　時：平成24年４月27日（金）13時30分～
場　所：臨床第一講堂

クリニカル・クラークシップの実習として、臨床現場へ赴く第５学年の学生94名に対し、学長、病院長、教育機構長、教育センター長より白衣が授与されました。また、学長、病院長より医療人として、自覚と責任感を持って行動するよう挨拶がなされ、学生より医療人としての意識を新たにすることが宣言されました。

平成24年度　職員入職式

日　時：平成24年４月２日（月）９時30分～
場　所：臨床第一講堂

事務職員・技術職員22名、看護職員83名、計105名の入職式が行われました。

理事長の挨拶に続いて事務局長より一人一人に辞令が交付され、病院長の挨拶、臨席者の紹介が行われました。

平成24年度　市民公開講座

■第１回

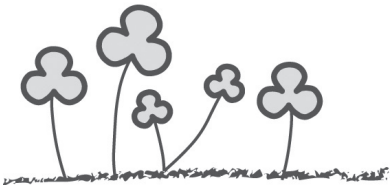
平成24年４月21日（土）14時～　臨床第一講堂
『「年をとったな」だけですませてませんか
　～見逃されがちな老年期うつ病～』
神経精神医学教室　助教　岡本　洋平

『認知症に使用するお薬について』
附属病院薬剤部　濱田　武

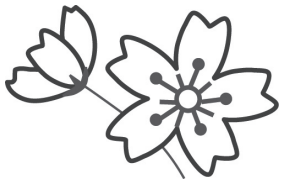
『老年期のうつ症状の方への家族の対応・生活支援』
附属病院看護部　浅島　有紀

平成24年度　市民公開講座　開催予定

回	開催日	演　　題	担当	薬剤部演題 看護部演題	講演薬剤師 講演看護師
第２回	５月19日（土）	「関節の痛む病気と関節リウマチの新しい治療」	内科学Ⅰ教室 診療准教授 槇野茂樹	最近のリウマチ薬との付き合い方	島本 玲奈
				関節リウマチと日常生活	橋口 宮子
第３回	６月16日（土）	「アトピー性皮膚炎のストレスをふっとばせ！」	皮膚科学教室 准教授 上田英一郎	夏場に注意したいお薬の話 （光線過敏症について）	富田 真由
				「Let's　ストレスマネジメント」	宮田　郁
第４回	９月15日（土）	「１歳までに知っておきたい乳幼児期の成長発達」	周産期センター 助教　大植慎也	授乳中に気をつけたいお薬の話	鈴木 典子
				乳児の発達をはぐくむ育児支援	森田 美千代
第５回	11月17日（土）	演者・演題未定	整形外科学教室	骨を丈夫にするお薬と仲良くする方法	窪田 理沙
				演題未定	演者未定
第６回	12月15日（土）	「肝癌の治療」	一般・消化器外科学教室 教授　内山和久	肝臓がんのお薬との付き合い方	花房 加奈恵
				肝臓がん手術後に日常生活で気をつけたいこと	坂田 愛美
第７回	平成25年 １月19日（土）	「噛める喜びを可能にする最新技術―歯科インプラント治療―」	歯科口腔外科学教室 教授　植野高章	感染症の予防はお口のケアから （口腔ケアのお薬について）	早坂　大
				おいしく食べ続けるために	檀上 明美



入学試験・国家試験状況



■平成24年度　入学試験状況

	志願者数（人）	受験者数（人）	入学者数（人）
医学部医学科	2,992	2,663	114
大学院医学研究科	39	39	37
看護学部看護学科	959	940	88

■国家試験状況

		受験者（人）	合格者（人）	合格率（%）	全国平均（%）
第106回 医師国家試験	総数	108	101	93.5	90.2
	新卒	98	95	96.9	93.9
	既卒	10	6	60	60
第101回　看護師国家試験		60	59	98.3	90.1

平成23年度　病院患者動態

	項　　目	単位	平成23年度	平成22年度	平成21年度	対前年比
入院	延入院患者数	（人）	254,488	255,107.0	252,751.0	－619.0
	（１日平均患者数）	（人）	695.3	698.9	692.5	－3.6
	（新入院患者数）	（人）	16,073	15,611.0	15,282.0	462.0
	（病床稼働率（延））	（%）	84.9	85.5	84.4	－0.6
	（平均在院日数）	（日）	14.8	15.4	15.5	－0.6
外来	延外来患者数	（人）	499,320	539,642.0	530,351.0	－40,322.0
	（１日平均患者数）	（人）	1,997.30	2,006.1	1,978.9	－8.8
	（初診患者数）	（人）	46,700	53,040.0	53,529.0	－6,340.0
	（１日平均初診患者数）	（人）	172.3	197.1	199.7	－24.8

平成24年度採用　臨床研修医（臨床研修歯科医師）

臨床研修医　50名　　臨床研修歯科医　３名

■主な行事日程（平成24年6月～8月）

６月１日（金）　創立記念日
　２日（土）　新入生歓迎会
　４日（月）　永年勤続表彰式
　６日（水）　診療科長会　医学研究科教授会
　12日（火）　理事会
　13日（水）　看護学部教授会
　　医学会総会・春季学術講演会
　16日（土）　平成24年度第３回市民公開講座
　17日（日）　看護学部オープンキャンパス（第１回）
　20日（水）　医学部教授会
　25日（月）　大学協議会

７月４日（水）　診療科長会　医学研究科教授会
　７日（土）　歴史資料館市民講座
　10日（火）　理事会
　11日（水）　看護学部教授会
　15日（日）　医学部オープンキャンパス（第１回）
　　看護学部オープンキャンパス（第２回）
　18日（水）　医学部教授会
　23日（月）　大学協議会
　　医学部夏期休業（～８月26日まで）

８月１日（水）　診療科長会
　７日（火）　理事会
　26日（日）　医学部オープンキャンパス（第２回）
　　看護学部オープンキャンパス（第３回）

訃　報

本学名誉教授（微生物学）の中井益代先生（83歳）が、去る平成24年４月11日(水)に逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

ご寄付のお願い

大阪医科大学では、大阪医科大学基金および教育環境整備事業など各種事業への募金活動を行っています。

皆様方のこれまでのご支援に深謝いたしますとともに、更なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

○ 大阪医科大学基金へのご寄付

＜寄付金申込者＞

平成24年１月１日から平成24年４月２日までの間の寄付金入金件数は61件、金額は4,479,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成24年４月２日までの間の寄付金入金件数は398件、金額は52,388,000円です。

（順不同・敬称略）

大阪電材株式会社　ユウキ産業株式会社　前川株式会社　医療法人毅峰会吉田病院
株式会社ニューメディアランドマツバラ　有限会社すばる印刷　株式会社アルファ・トレンド
東芝ファイナンス株式会社

森　浩志	成松　正治	大野　浩二	谷川　允彦	臼田　寛	村上　澄子	田原　一也
大野　博司	袖岡　秀幸	井口　健	森本真佐子	木村　正士	金森ひろ子	森本　純司
金田　恵孝	西山　裕子	小牟田美幸	濱本由美子	守本　俊子	大槻　勝紀	米田　博
池本　敏行	植田　政嗣	西本　泰久	石川　俊明	奥田　準二	南　敏明	西村保一郎
朝日　通雄	寺井　陽彦	荻野　一子	竹内　淑恵	高井　七重	澤村　律子	藤岡　重和
佐野　浩一	郷司　和男	辻　求	出坂　秀雄	秋田　和彦	堤　俊夫	白波瀬　功
西尾　元	植木　實	國澤　隆雄	松原　健	大槻　哲彦	匿名４件	

※毎年継続したご寄付（口座自動振替etc.）をご希望される方は、「大阪医科大学基金（通称・フレンズ基金）で承っております。なにとぞご支援賜りますようお願い申し上げます。

○ 附属病院の整備事業募金へのご寄付

＜寄付金申込者＞

平成24年１月１日から平成24年３月31日までの間の寄付金入金件数は26件、金額は4,540,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成24年３月31日までの寄付金入金件数は98件、金額は18,420,000円です。

（順不同・敬称略）

医療法人川村会くぼかわ病院　東洋紙業高速印刷株式会社　社会医療法人信愛会　医療法人東和会
社会医療法人愛仁会　医療法人寺西報恩会長吉総合病院　日本エア・リキード株式会社関西地域本部
神戸掖済会病院　医療法人蒼生会蒼生病院　医療法人社団洛和会洛和会音羽病院　中西印刷株式会社
株式会社大学通信　エイ・マック株式会社　医療法人旭会（社団）　医療法人ラポール会青山病院
祐森　弘子　神谷美佐子　髙橋　宏明　匿名８件

○ 教育環境整備事業募金へのご寄付

＜寄付金申込者＞

平成24年１月１日から平成24年３月31日までの間の寄付金入金件数は６件、金額は8,000,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、平成23年４月１日から平成24年３月31日までの寄付金入金件数は36件、金額は67,500,000円です。

（敬称略）

山根　則夫　匿名５件

寄付金報告

○ 別館講堂「机募金」へのご寄付

＜寄付金申込者＞

平成24年１月１日から平成24年３月31日までの間の寄付金入金件数は２件、金額は600,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、平成23年１月１日から平成24年３月31日までの寄付金入金件数は10件、金額は4,500,000円です。

（順不同・敬称略）

神谷美佐子　　成松　正治

○「別館」・「歴史資料館」維持事業募金へのご寄付

＜寄付金申込者＞

平成24年１月１日から平成24年３月31日までの間の寄付金入金件数は３件、金額は120,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成24年３月31日までの寄付金入金件数は42件、金額は5,603,460円です。

（順不同・敬称略）

礒田　洋三　　平井　智子　　成松　正治

■ 募金の状況

１．教育環境整備のための募金

平成22年４月１日から平成23年３月31日までに寄せられた教育環境整備のための事業募金について総額71,138,000円のご寄付の内、平成23年度に繰越しました31,572,536円につきましては、「教育支援学資ローン制度の設立のための資金」として実施いたしましたのでご報告申し上げます。
皆様のご支援・ご協力に改めて御礼申し上げます。

２．新学部設置のための事業募金

平成21年１月１日から平成22年12月31日までに寄せられた新学部設置のための事業募金について総額28,291,000円のご寄付の内、平成23年度に繰越しました6,121,649円につきましては、「平成23年度教務システム関係費16,959,600円の一部に充当」として実施いたしましたのでご報告申し上げます。
皆様のご支援・ご協力に改めて御礼申し上げます。

■ ご支援をお考えの皆様へ

ご寄付のお手続き方法

1. 大阪医科大学ホームページよりダウンロードした寄付申込書にご記入のうえ、FAXまたはご郵送ください。

●ご郵送先：569-8686
大阪府高槻市大学町2番7号
●FAX：072-681-3723

2. お近くの金融機関より下記口座にお振り込みをお願いします。

口座名義	学校法人大阪医科大学（募金口）
振込先 口座番号	三井住友銀行 高槻支店 普通預金　2161078

※本学所定の振込用紙をご利用して三井住友銀行の本支店でお振込みされた場合は、お振込手数料は無料です。振込用紙は募金推進本部までご請求ください。

3. ご入金の確認ができ次第、領収書とお礼状をお送りいたします。

（備考）寄付申込書は、本学ホームページ（http://www.osaka-med.ac.jp）の「ご支援のお願い」から、お入り下さい。

寄付金に関するお問合せ

学校法人大阪医科大学 募金推進本部　　受付時間／平日9：00～16:30
〒569-8686 大阪府高槻市大学町２番７号
TEL:072-684-7243（直通）FAX：072-681-3723　E-mail:kikin@art.osaka-med.ac.jp

■主要会議とその主な議題（平成24年２月～４月）

【理事会】

〔平成24年２月14日〕

―審議事項―

1．役員･評議員の定年に関する「申し合わせ事項」適用の特例措置について
2．理事委員会委員の選任について
3．教授の選任について
4．学校法人大阪医科大学寄附行為の一部変更について
5．学校法人大阪医科大学理事委員会規程の一部改正について
6．大学院新研究科設置について
7．第３号基本金組入れに係る計画の変更について
8．予備費の使用について

―報告事項―

1．担当理事運営会議報告
2．病院経営改善委員会報告
3．日本私立医科大学協会報告
4．病院関係報告
5．看護専門学校関係報告
6．病院建築に関する調査結果と病棟建築計画策定について
7．ヴォーリス展について
8．歴史資料館館長について

〔平成24年３月13日〕

―審議事項―

1．学校法人大阪医科大学理事会内人事委員会規程の制定について
2．大阪医科大学学則の一部改正について
3．大阪医科大学大学院学則の一部改正について
4．平成24年度予算試算について
5．予備費の使用について

―報告事項―

1．担当理事運営会議報告
2．日本私立医科大学協会報告
3．病院長候補者・図書館長予定者・大学院専任教授予定者の報告
4．理事委員会の開催について
5．学事関係報告
6．病院関係報告

〔平成24年３月30日／その１〕

―審議事項―

1．平成24年度事業計画及び予算の概要について
2．平成24年度予算について
3．病院長の選出について
4．図書館長の選任について
5．理事の選任について
6．監事候補者の選出について
7．評議員（第３号）の選任並びに評議員（第５号）の選出について
8．参与の委嘱について

―報告事項―

1．平成23年度資金収支決算見込報告書について
2．担当理事運営会議報告
3．学校法人大阪医科薬科大学寄附行為（案）について
4．公式ホームページについて
5．その他

〔３月30日／その２〕

―審議事項―

1．平成24年度事業計画及び予算の概要について
2．平成24年度予算について
3．評議員の選任について

〔平成24年４月10日〕

―審議事項―

1．理事委員会委員の選任について

―報告事項―

1．担当理事運営会議報告について
2．病院新病棟建築に関して
3．入試関係報告
4．学事関係報告
5．病院関係報告

【評議員会】

〔平成24年２月14日〕（臨時）

―審議事項―

1．学校法人大阪医科大学寄附行為の一部変更について
2．役員･評議員の定年に関する「申し合わせ事項」適用の特例措置について

—報告事項—
1．本学八丁畷土地と大阪府営高槻住宅土地との交換について

〔平成24年３月30日〕
—審議事項—
1．平成24年度事業計画及び予算の概要について
2．平成24年度予算について
3．監事候補者の選出について
4．評議員の選出について
—報告事項—
1．平成23年度資金収支決算見込報告
2．学校法人大阪医科薬科大学寄附行為（案）について
3．学事関係報告
4．病院関係報告
5．看護学部関係報告
6．看護専門学校関係報告

【大講座主任教授会】
〔平成24年２月８日〕
—審議事項—
1．任期付教員の再任にかかる事前審査について

【医学部教授会】
〔平成24年２月15日〕
—審議事項—
1．人事に関する件
2．救急医学教室の在り方検討学長諮問委員会報告
3．名誉教授称号授与に関する件
4．学部学生の退学願い出について
5．学部学生からの復学願い出について
6．学生生活支援センター長の辞任について
7．大阪医科大学学則別表及び大阪医科大学授業科目履修務認定方法および学習の評価・進級に関する規則別表の一部改正について
8．平成24年３月31日で任期満了となる委員会委員の選出について
—報告事項—
1．理事会報告
2．学長報告
3．教育機構長報告
4．倫理委員長報告

〔平成24年２月20日〕（臨時）
—審議事項—
1．平成24年度医学部入学試験に関する件
2．図書館長候補者の推薦について
3．本年２月15日教授会での委員会委員選出結果について
—報告事項—
1．学長報告

〔平成24年２月24日〕（臨時）
—審議事項—
1．平成24年度医学部入学試験に関する件
2．大阪医科大学学則別表の一部改正について
—報告事項—
1．教育機構長報告

〔平成24年３月２日〕（臨時）
—審議事項—
1．平成24年度入学試験に関する件
2．大阪医科大学学則別表の一部改正について
3．生体管理再建医学講座整形外科学教室担当教授の選考について
—報告事項—
1．理事会報告
2．学長報告

〔平成24年３月15日〕（臨時）
—審議事項—
1．平成24年度入学試験に関する件
2．第１～４学年の進級合否判定ついて
3．図書館長選挙結果について
4．生体管理再建医学講座整形外科学教室担当教授の選考について
—報告事項—
1．学長報告
2．広報・入試センター長報告
3．ホームページ委員長報告
4．その他

〔平成24年３月21日〕
—審議事項—
1．平成24年度入学試験に関する件
2．人事に関する件
3．救急医学教室の在り方検討学長諮問委員会報告

4．平成24年３月31日で任期満了となる委員会委員の選出について
5．大阪医科大学特別任命教員規程の一部改正(案)について
―報告事項―
1．学長報告
2．教育機構長報告
3．倫理委員長報告
4．その他

〔平成24年４月３日〕(臨時)
―審議事項―
1．平成24年度入学者決定に関する件
2．人事に関する件
3．生体管理再建医学講座整形外科学教室担当教授の選考について
4．学部学生の復学願い出について
5．本年３月21日教授会での委員会委員選出結果について
―報告事項―
1．理事会報告
2．市民公開講座運営委員長報告

〔平成24年４月18日〕
―審議事項―
1．人事に関する件
2．鈎奨学基金研究助成金審査委員の選出について
3．学部学生からの復学願い出について
4．生命科学講座生化学教室担当教授の選考について
5．医学部入試実務委員会委員長の決定について
6．その他
－報告事項－
1．理事会報告
2．学長報告
3．教育機構長報告
4．病院長報告

【医学研究科教授会】
〔平成24年２月１日〕
―審議事項―
1．人事に関する件
2．特別協力研究員に関する内規の一部改正について
3．学外研修(延長)について
4．大学院特別研究生(研究指導委託)(延長)について
5．平成24年度大学院「統合講義」担当者の斡旋について
―報告事項―
1．大学院入学試験(２月実施分)について
2．臨床研究教育研修会について
3．第７回「ロレアル－ユネスコ女性科学者　日本奨励賞」公募について
4．千里ライフサイエンスセミナー「がんの浸潤・転移と微小環境」開催について
5．「購買・発注・受入・検収関連業務」の業務統合計画について
6．平成24年(１月～４月)医学研究科教授会開催予定表について
7．大阪医科大学研究機構研究プロジェクト募集について(案)

〔平成24年２月15日〕(臨時)
―審議事項―
1．平成24年度大学院医学研究科入学試験(２月入試)の合否判定について
2．平成24年度大阪医科大学大学院医学研究科入学宣誓式の代表宣誓者について

〔平成24年３月７日〕
―審議事項―
1．人事に関する件
2．退学願について
3．研究生新規出願及び平成23年度からの継続手続について
4．大学院学則の一部改正について
5．大学院医学研究科履修細則の一部改正について
6．平成24年度学位論文審査案について
7．大学院学位規程及び同施行細則の一部改正について
8．大阪医科大学産官学連携共同研究取扱規程(案)及び同細則(案)について
9．大阪医科大学産官学受託研究取扱規程(案)について
10．研究機構諸規程等の一部改正及び規程案等について

—報告事項—
1．平成24年度統合講義について
2．課題募集型研究プロジェクトの公募について
3．がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン申請状況について
4．千里ライフサイエンスセミナーについて

〔平成24年３月21日〕(臨時)
—審議事項—
1．退学願について
2．平成23年度 第２回学位論文審査結果に基づく可(合)否決定について
3．平成24年度 研究機構共同研究プロジェクトについて
—報告事項—
1．平成23年度医学研究科第Ⅱ回学位記授与式及び平成24年度医学研究科入学宣誓式について

〔平成24年４月３日〕
—審議事項—
1．平成24年度 大学院医学研究科給付奨学金の給付について
2．専攻授業科目変更について
3．研究機構諸規程等の一部改正及び規程案等について
4．その他
—報告事項—
1．平成24年度 大学院医学研究科入学手続者について
2．平成24年度「統合講義」の受講配慮について
3．その他

【大学協議会】
〔平成24年２月27日〕
—協議事項—
1．大学看護学部諸規程の改正案について
2．大学ホームページのトップ画面について
3．医看融合教育について

〔平成24年３月26日〕
—協議事項—
1．大阪医科大学特別任命教員規程の一部改正について
2．医看融合教育について
3．その他

〔平成24年４月23日〕
—協議事項—
1．平成24年度大学協議会協議員について
2．平成24年４月～平成25年３月大学協議会開催予定について
3．その他

【看護学部教授会】
〔平成24年２月６日〕(臨時)
—審議事項—
1．平成24年度看護学部入学試験に関する件

〔平成24年２月８日〕
—審議事項—
1．非常勤講師の上申について
2．看護学部シラバスの表紙色の決定について
3．平成24年度　学事予定表(案)について
4．ディプロマポリシー及び学習目標について
5．科目の読み替えについて
6．進級判定の発表の掲示方法について
7．各センター委員推薦者と大学協議会推薦者について
8．看護学部各種委員会名称の変更と委員数について
9．今後の看護学部ヘルプ体制について
—報告事項—
1．大学安全対策委員会規程の改定について
2．2012年度「研究助成」の募集について
3．新研究科設置準備について
4．教育的配慮中の2010年度生経過報告について
5．大学協議会報告
6．各種センター等報告
　1)学生生活支援センター報告
　2)教育センター報告
　3)看護実践研究センター報告
　4)実習調整委員会報告
　5)国際交流委員会報告

〔平成24年２月15日〕(臨時)
—審議事項—
1．平成24年度看護学部入学試験に関する件

〔平成24年３月６日〕(臨時)
―審議事項―
１．平成24年度看護学部入学試験に関する件
２．看護学部棟の改修工事について
３．設置経費の一部変更について
４．HPトップページのデザインについて
―報告事項―
１．講義室名の名称変更について

〔平成24年３月14日〕
―審議事項―
１．教員の人事について
２．非常勤講師の上申について
３．平成24年度大阪医科大学看護学部各種委員会(案)について
４．平成24年度大阪医科大学各種委員会委員(案)について
５．教育配慮中の2010年度生の進級判定について
６．第２学年の進級判定について
７．第１学年学生の休学について
８．新旧科目　老年看護学地域実習の読み替えについて
９．備品の学生への貸し出しについて
10．公衆衛生看護の実習について
11．平成24年度新入生学外合宿プログラムについて
12．平成24年度チューター担当教員のグループの再編について
13．第二回「看護研究セミナー」(案)について
14．看護実践研究センターシンポジウム(案)について
15．後期入学試験実施について
16．看護学部年報の作成について
17．国家試験対策について
―報告事項―
１．大阪医科大学市民公開講座運営委員会について
２．看護学部各種会議について
３．老年看護学地域実習　臨地実習指導者及び担当教員一覧(2012年度)計画(案)について
４．医学会総会について
５．大学協議会報告
６．広報活動に関するアンケート結果について
７．看護学部センター規程について
８．各種センター等報告
　１)学生生活支援センター報告
　２)教育センター報告
　３)看護実践研究センター報告
　４)実習調整委員会報告
　５)国際交流委員会報告

〔平成24年４月３日〕(臨時)
―審議事項―
１．平成24年度看護学部入学生の決定について
―報告事項―
１．評議員会報告について
２．その他

〔平成24年４月11日〕
―審議事項―
１．非常勤講師の上申について
２．海外出張について
３．平成24年度大阪医科大学入学時特待生候補者の決定について
４．国家試験対策規程について
５．Webサイトについて
６．看護研究セミナーについて
―報告事項―
１．平成24年度事業計画及び予算の概要について
２．平成24年度予算について
３．大学協議会報告
４．各種センター報告
　１)学生生活支援センター報告
　２)教育センター報告
　３)看護実践研究センター報告
　４)実習調整委員会報告
　５)国際交流委員会報告
５．その他
　１)就職支援委員会について
　２)老年看護学地域実習について
　３)試験問題の保管について
　４)学籍簿の管理について

大学安全対策室

■大学安全対策室からのお知らせ

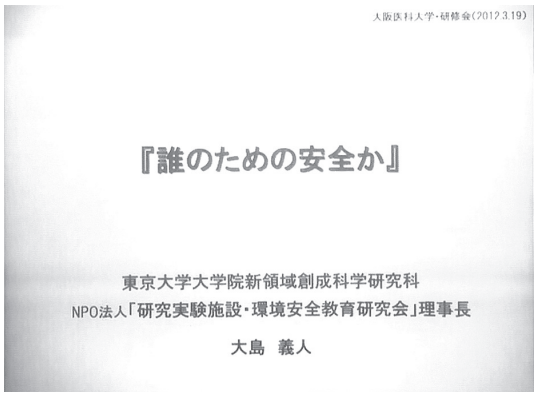
大学安全対策室　室長　河野　公一

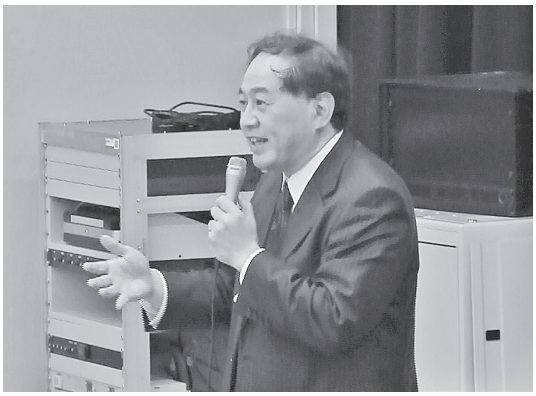
大学安全対策委員会において新たに設置された環境管理小委員会で、まずは大学における廃棄物等に係る問題点の検討をおこなっており、今後は体制の整備や手引きの作成を念頭に進める予定です。

感染対策小委員会では、季節性インフルエンザ流行時における学年閉鎖等の対応について示した「学生の季節性インフルエンザの対応（案）」が作成され、今後は教育機構においても検討される予定です。

薬品管理小委員会では、化学物質等を適正に管理するため平成24年度化学物質等管理責任者および保管責任者の選出を行いました。さらに平成24年７月には化学物質等保管状況が適正に管理されているかを確認するために巡視を予定しています。その際は何卒ご協力のほどよろしくお願いいたします。

平成24年３月19日に東京大学大学院新領域創成科学研究科大島義人教授をお招きし、研修会「誰のための安全か」を開催しました。





大島　義人　教授

また、学内限定ですが、ご意見をお寄せいただけるように入力フォームを作成いたしましたので、皆様のご意見をお待ちしています。

＊　実施した研修会のＤＶＤや安全に関する書籍の貸出をいたしますのでご利用ください。

【連絡先】　大学安全対策室（総合研究棟１階）内線3404、3405
E-mail　sps000@art.osaka-med.ac.jp
URL　www.osaka-med.ac.jp/deps/sps/index.html

大学安全対策委員会
大学安全対策委員会規程改正
感染対策小委員会
「学生の季節性インフルエンザの対応：学年閉鎖等について（案）」の作成
薬品管理小委員会
平成24年度化学物質等管理責任者および保管責任者選出
平成24年７月化学物質等保管状況の適正管理の巡視予定
環境管理小委員会
大学における廃棄物等についての対応
研修等
東京大学・大島義人教授による講演「誰のための安全か」を開催（平成24年３月19日）

■第７回リスクマネージャー宿泊研修

Ⅰ．日　　時　　平成24年２月３日（金）９時30分～18時00分
　　平成24年２月４日（土）８時30分～12時40分

Ⅱ．場　　所　　ホテル阪急エキスポパーク　大阪府吹田市千里万博公園１-５

Ⅲ．タスクフォース　　医療安全対策室（医療安全推進部部長）　大道　正英
　　医療安全対策室（一般消化器外科）　平松　昌子
　　医療安全対策室（耳鼻咽喉科）　萩森　伸一
　　医療安全対策室（心臓血管外科）　大門　雅広
　　医療安全対策室（病院薬剤部）　西原　雅美

Ⅳ．参　　加　　者　　医師：10名、看護師：15名、コメディカル他：７名
　　講師・タスクフォース・スタッフ：13名　　計45名

Ⅴ．プログラム

		時　刻	所要時間	方法	内　容	講師
1日目	午前	9:30-9:35	5分		オリエンテーション	大道
		9:35-9:40	5分		開会挨拶	木下病院長
		9:40-9:55	15分		アイスブレーキング	角江
		9:55-10:05	10分		医療安全対策室の取り組み	松上
		10:05-10:45	40分	講義	医療安全の課題（RCAの概要と実際）	平松
		11:45-11:55	10分	休憩		
		10:55-11:20	25分	講義	『入職時オリエンテーションを考える』	村尾
		11:20-12:00	40分	講義	『医療安全の昨日、今日、明日』 ～李啓充先生の「アメリカ医療の光と影」より～	大門
		12:00-13:00	60分	昼食		
	午後	13:00-13:10	20分	演習	RCA演習方法のオリエンテーション	平松
		13:10-14:00	50分	演習	RCA･グループワーク①（出来事流れ図）	大道 平松 萩森 大門 西原
		14:00-14:50	50分	演習	RCA･グループワーク②（なぜ･なぜ分析その１）	
		14:50-15:10	20分	演習	中間発表（なぜ？）	
		15:10-15:30	20分	休憩		
		15:30-16:30	60分	演習	RCA･グループワーク②（なぜ･なぜ分析）	
		16:30-17:30	60分	演習	RCA･グループワーク③（因果関係図･対策立案）	
		17:30-18:00	30分	講義	『医薬品安全管理に関する事例検討』 ～ハイリスク薬関連のエラーを中心に～	西原
		18:00-18:30	30分	休憩	休憩	
		18:30-20:30	120分	夕食		
2日目	午前	7:00-8:30		朝食	朝食・チェックアウト	
		8:30-8:50	20分	講義	『医療機器の事故防止』	岩崎
		8:50-9:20	30分	演習	RCAグループワークまとめ・発表準備	
		9:20-10:30	70分	演習	RCA発表、結果の検証・総括	村尾
		10:30-10:50	20分	休憩		
		10:50-11:50	60分	講義	『患者急変のリスクマネージメント』	新田
		11:50-12:00	10分	講義	『本院の医療安全について』	大道
		12:00-12:40	40分		閉会挨拶、修了証書授与、写真撮影、解散	大道

医療安全対策室

今回のリスクマネージャー（以下「RM」という。）宿泊研修受講者は医師10名（RM.9名）、看護師15名（RM.6名）、メディカルスタッフ７名であり、タスクフォースとして医療安全推進部大道部長、医療安全対策室員（４名）の５名で担当し、その他に木下病院長と講師２名、スタッフ５名の総勢45名で実施した。

研修会は大道部長のオリエンテーションに続き、木下病院長から、RM及び次世代RMに対して、本研修会が持つ意味についての説明があった。「宿泊研修と言う形を取ることで、二日間の短い時間ではあるが、多職種間の垣根を超え、コミュニケーションスキルを確立し高める事ができるので、是非頑張っていただきたい。」と挨拶があった。

木下病院長による研修開催の挨拶

研修終了後、全員で記念撮影

アイスブレーキング・医療安全対策室の取り組みを説明した後、メインテーマである「RCAグループワーク」（演習）を中心に、５題の講義を交えて和やかな中にも真剣に取り組む受講者の姿があった。閉会の挨拶の後、大道部長より受講者に対し修了証書が手渡された。終了後のアンケートからは「宿泊研修（缶詰状態）の中での研修は、多職種間コミュニケーションを構築するのに大いに役立つ」等の意見を多くもらい、「参加して良かった」と言う意見がほとんどであったことを考えると、今後も安全研修の中心的事業として継続していきたい。

■第30回事例検討会

日　　時　　平成24年２月10日（金）午後５時～６時30分
場　　所　　臨床第一講堂
演　　題　　「医療現場でのより良い関係づくり」
　　～医療メディエーション：医薬品に関する事例を含めて～
演　　者　　大阪歯科大学 大学院　歯科麻酔学 准教授 佐久間 泰司　先生
　　社会福祉法人 京都社会事業財団 京都桂病院
　　医療メディエーター　出森 智子　先生
　　医療安全推進部・薬剤部・看護部安全対策委員
出 席 者　　225名

医療現場において、医療者と患者、医療者同士（医師と看護師、医師と薬剤師と看護師）のコミュニケーションの齟齬がコンフリクト（衝突、対立、葛藤、紛争）を産生することが確認されている。

今回の事例検討会は、医療メディエーションを各々の病院で実践されている講師を２名招聘して、講義とロールプレイを交え、初めての試みとして実施した。各部門リスクマネージャー及びその他医療従事者225名が出席した。

大道医療推進部部長の開会挨拶に続き、村尾医療安全対策室室長の司会により、事例検討会が進行した。

ロールプレイにおいて各役割を演じたのは、医療安全対策室の室員と病院看護部、病院薬剤部であり、全ての演者が役になり切って、本当に素晴らしいロールプレイであった。

村尾室長を中心とした２例目のロールプレイ

最初に佐久間講師よりメディエーションの概要の説明が有り、１例目のロールプレイが行なわれた。

１例目は「医師対看護師のコンフリクト」で、聴講者が静まり返るほどの白熱の演技であった。２・３例目は担当が出森講師に代わり、２例目のロールプレイは「医師対患者のコンフリクトに看護師の対応」といった内容で、３例目は「医師、看護師、薬剤師の３極のコンフリクト」であった。講師よりそれぞれについて丁寧に解説を加えながら、ロールプレイの講評をされた。

多くの意見・感想として「医師⇔患者のコンフリクトだけでなく、医師⇔看護師のコンフリクトに対するメディエーションはすごく興味深かった。中央部門のスタッフとしてチーム医療を本質的により良くする為の策（考え方）として役立てたい。」とか、「コンフリクトの成り立ちについてすごくリアルに理解できた。メディエーターとしての役割を意識しながら安全な医療につながるよう明日からの仕事に役立てられればと思った。ロールプレイをライブで見る事が出来、とっても良かった。」、「とてもためになった。医療メディエーションという概念を初めて知ったので、明日にでも活用していこうと思う。」等々、多くの賛同意見が寄せられた。

今後は今回のような参加型の事例検討会の開催を続けて行きたいと考える。

好演する平松室員

端的で非常に解りやすい解説の佐久間講師

穏やかな語り口調の中に説得力のある出森講師

＊＊＊＊＊＊＊　お知らせ　＊＊＊＊＊＊＊

『医療に係る安全管理のための職員研修』（事例検討会・特別講演会等）の出席は、医療に係る全ての職員（常勤・非常勤・アルバイト・派遣・委託職員等も含む）が年２回以上出席し、安全に関する意識の向上等を図るものとされています。

研修会へご出席できない方については、DVDの貸し出しや医療安全対策室横研修室で随時DVDが視聴出来ますのでご利用下さい（お問い合わせ：医療安全対策室　２号館５階　内線2990）

■北摂四医師会感染対策ネットワークについて

感染対策室　室長　**浮村　聡**

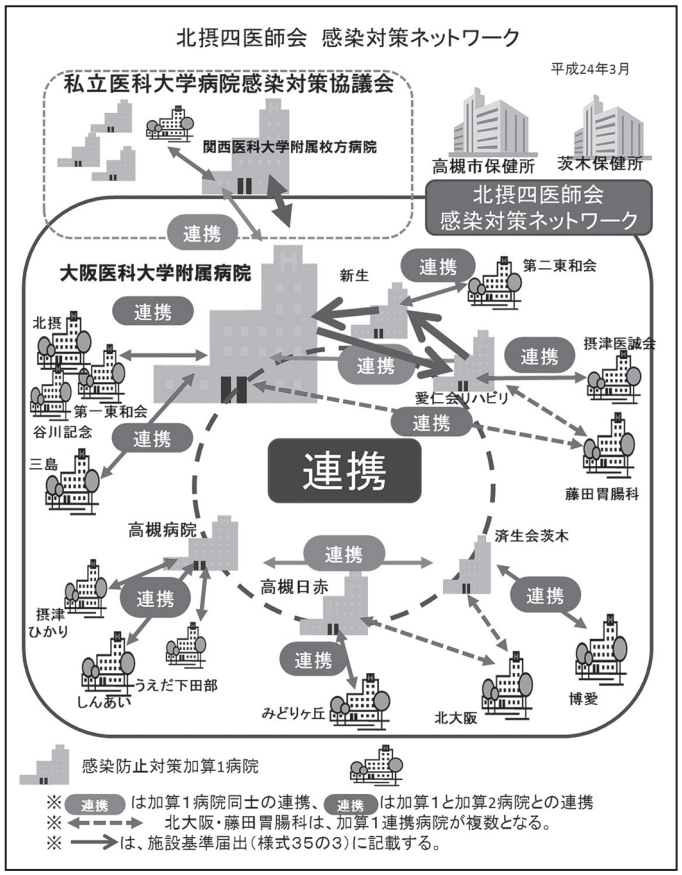
平成24年度の診療報酬改定は全体改定率＋0.004％、診療報酬本体＋1.38％（約5,500億）であり、重点課題として「急性期医療の適切な提供に向けた病院勤務医等の負担の大きな医療従事者の負担の軽減」と「医療と介護の役割分担の明確化と地域における連携体制の強化及び地域生活を支える在宅医療等の充実」があげられました。

また、今回の改訂では院内における感染防止対策の評価として「感染防止対策加算１：入院初日400点、加算２：100点、感染防止対策地域連携加算：入院初日100点と全入院患者１人あたり合計500点（5,000円）」が算定されることになりました。そして、これらの加算の算定要件を満たすためには、加算１を算定する施設と加算２を算定する施設が互いに連携を取ることが求められました（図１）。

そこで、感染対策室では、北摂四医師会の協力を得て北摂四医師会に属する医療機関が相互の連携を通し、感染症診療および感染防止対策の推進に貢献することを目的とした「感染対策ネットワーク」を立ち上げました。４月の時点でのネットワーク参加施設は20施設であり、高槻市保健所と茨木保健所がオブザーバーとなり、今年度は４回の会議と２回の病院ラウンドを予定しています。

感染予防対策の地域連携については、昨年（2011年６月17日）の厚生労働省通知においても「地域ネットワークを構築し日常的な協力関係を築くこと」、「大学病院はその中心的な役割を担うこと」と明記されていました。そして今年度は更に診療報酬加算を付けるという形で国が地域連携という方向性を示しました。

図１



このネットワークの目的は日常的な感染対策の必要性への啓蒙活動だけでなく、院内感染発生時に保健所等公的機関への届け出義務（民→公）が生じる以前の早期の段階で、このネットワークに相談し（民→民）、大きな問題にならぬよう未然に対応することも目的の一つと考えられます。

大阪医科大学は事務局として、また指導的立場の施設としてこのネットワークの中心的役割を果たしていきたいと考えます。市民公開講座なども活動の一部となります。さらに今後、この地域連携は感染対策だけではなく様々な活動の基盤となり、地域と密着した医療の推進に貢献できるのではないかと考えています。

保健管理室からのお知らせ

■　感染症抗体検査、ワクチン接種について

本学では感染症対策の一環として、麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘の抗体の有無の確認、抗体がない場合のワクチン接種を強く推奨していますが、抗体がない（低い）職員・学生のワクチン接種率は約60～70%となっています（表）。これらの感染症に罹患した場合、妊婦や免疫力の低下した患者様に広く伝播させ、場合によっては生命の危険にさらしてしまう恐れがあります。また職員の就労制限や患者様の入院制限等の対応も必要となってきます。

これらの感染症はワクチンにより感染を防止することが可能です。自分自身を感染から守るため、患者様や他の医療従事者への二次感染を防ぐため、感染が流行した場合の病院機能損失回避のためにも、抗体がない（低い）場合は、ワクチンを接種して下さい。

表　４種感染症ワクチン接種率（2012年２月16日付）

感染症	抗体がない（低い）職員・学生数（人）	ワクチン未接種者数（人）	接種率（%）
流行性耳下腺炎	556	225	59.5
麻疹	208	39	81.3
風疹	455	196	57.1
水痘	125	39	68.8

異なる種類のワクチンを接種する場合の注意

特に新入生や新入職員は抗体が無い場合が多く、複数の異なる種類のワクチンを接種することになってきます。

異なったワクチンを接種する場合、各々のワクチンに定められた接種間隔を守るよう注意して下さい。また本学が実施するワクチン接種（B型肝炎、インフルエンザ）は日時が決まっていますので、他のワクチン接種と重なると接種ができなくなります。ご注意ください。

①生ワクチン（麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘など）は、次の接種を行う日までの間隔は27日間以上

②不活化ワクチン（B型肝炎、インフルエンザ、子宮頸がんなど）は、次の接種を行う日までの間隔は６日間以上

■　長時間労働者の医師による面接指導について

労働安全衛生法の改正（平成18年４月１日施行）により、長時間労働者（月100時間を超える時間外・休日労働）に対して医師による面接指導を実施することが義務付けられました。本学では労働安全衛生法で定められた基準に加えて、“月45時間を超える時間外･休日労働で産業医が必要であると認めた場合”という独自の基準を設け、長時間労働者への健康診断、及び面接指導を毎年２回（５月、10月）実施してきました。しかし労働安全衛生法に沿った方法で実施するよう指摘を受けましたので、今年１月より以下の方法で実施しています。

長時間労働は仕事による負荷を大きくするだけではなく、睡眠・休養機会を減少させ、疲労蓄積の原因となり、心身の健康障害のリスクを高くします。面接指導を上手く利用していただき、ご自身の健康管理に留意して下さい。

【対 象 者】月45時間を越える時間外・休日労働で産業医が必要であると認めた場合

【実施日時】時間外労働が45時間以上となった月の翌月

【内　　容】毎月20日過ぎ頃に、保健管理室より対象者に面接指導のご案内をし、希望者に医師（本学の健康管理医）による面接、及び健康相談を実施します。
なお、従来行っておりました健康診断（計測、血液検査、心電図など）は行っておりません。

■　B型肝炎ワクチン接種のご案内

１回目Ｂ型肝炎ワクチン接種・追加ワクチン接種、及び２回目B型肝炎ワクチン接種・追加ワクチン接種者の抗体確認検査を下記のように実施します。

１回目B型肝炎ワクチン接種・追加ワクチン接種

【実施日時】平成24年６月７日（木）、８日（金）　15：30～16：30
【場　　所】総合研究棟１階　保健管理室
【対 象 者】４月に抗体検査を受けてワクチン接種を申込された方（但し昨年度３回のワクチン接種を受けられた方は対象外）となります。

２回目B型肝炎ワクチン接種

【実施日時】平成24年７月５日（木）、６日（金）　15：30～16：30
【場　　所】総合研究棟１階　保健管理室
【対 象 者】６月に１回目B型ワクチン接種を受けた方

追加ワクチン接種者の抗体確認検査

【実施日時】平成24年７月５日（木）、６日（金）　８：45～10：00、15：00～16：00
【場　　所】総合研究棟１階　保健管理室
【対 象 者】６月に追加ワクチン接種を受けた方

平成24年度Ｂ型肝炎ワクチン接種スケジュール

		６/７（木） ６/８（金）	７/５（木） ７/６（金）	12/６（木） 12/７（金）	平成25年 １/23（水） １/24（木）
新規	初めて受ける人 抗体を獲得したことがない人	１回目 ワクチン接種	２回目 ワクチン接種	３回目 ワクチン接種	抗体確認検査
追加	以前ワクチン接種で一度抗体を獲得した人	追加 ワクチン接種	抗体確認検査		

■　特定業務従事者健診、有機溶剤・特定化学物質健診のご案内

平成24年度特定業務従事者健診、有機溶剤・特定化学物質健診を実施します。この健診は労働安全衛生法第66条第２．３項、有機溶剤中毒予防規則第29条、及び特定化学物質等障害予防規則第39条に基づいて実施します。

対象者には事前に健診案内を配布しますので、日時などを確認の上、必ず受検して下さい。

【実施日時】平成24年５月23日（水）～25日（金）　９：00～16：00
【場　　所】保健管理室、第７、８会議室（総合研究棟１階）

■　平成24年度９月以降の予定

平成24年度９月以降の各種健康診断･感染症事業予定は下記のとおりとなります。詳細は対象者の方々に随時ご案内しますので、必ず受検して下さい。

また健康診断、感染症事業の実施においては、中央検査部、中央放射線部、病院感染対策室、薬剤部など関係部署の多くの方々のご協力で実施しています。厚く御礼申し上げます。

健康診断名	対象者	実施時期	関連法規
職員定期健康診断	教職員、レジデント、研修医、非常勤職員	10月	労働安全衛生法第66条、労働安全衛生規則第44条、学校保健安全法第２章第15条
特定健康診断・特定保健指導	40歳以上の教職員	10月	高齢者の医療の確保に関する法律第20、24条
特定業務従事者健康診断	深夜業務に従事している者	10月（６ヶ月毎）	労働安全衛生法第66条、労働安全衛生規則第45条
雇入時健康診断	雇入者	随時	労働安全衛生法第66条、労働安全衛生規則第43条
電離放射線健康診断	電離放射線業務に従事している者	10月（６ヶ月毎）	労働安全衛生法第66条、電離放射線障害防止規則第56条
有機溶剤・特定化学物質健康診断	有機溶剤、特定化学物質取扱者	10月（６ヶ月毎）	労働安全衛生法第66条、有機溶剤中毒予防規則第９条、特定化学物質等障害予防規則第39条
長時間労働者健康診断及び面接指導	月45時間以上の時間外・休日勤務者	毎月	労働安全衛生法第66条
血液浄化センター・臨床工学室定期検診	血液浄化センター、臨床工学室職員	９月	
QFT検査	雇入者、医学部・看護学部１年生、大学院１年生	雇入時	
感染症抗体検査	雇入者、大学院１年生	雇入時	
B型肝炎ワクチン接種３回目	教職員、学生	12月	
インフルエンザワクチン接種	教職員、学生	11月	

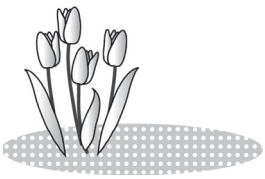
カウンセリングのご案内　～一人で抱え込まないで、早めに相談しましょう～

新年度に入り、異動、入職、入学など環境が大きく変わる時期です。新しい環境、生活に慣れるためにストレスが高まりやすく、疲れがとれない、気持が落ち込みやすい・・など心身ともに疲労状態となります。この状態が続くと、中にはうつ病など心の病気に陥ってしまうこともあります。身体疾患と同様にこころの不調も早めの対処が重要ですので、“しんどいな”と感じたら上司や先輩、友達に相談しましょう。また本学の保健管理室には臨床心理士が常勤し相談業務を行っていますので、気軽にご利用下さい。

なお相談内容の秘密は厳守しますので、ご安心してお越し下さい。

【利用方法】

① 保健管理室（研究棟１階）に直接来室して下さい。あらかじめ日時を予約することもできます。
② 電話、メールでの問い合わせ、予約も受付けています。
③ 受付時間：月～金曜日　９：00～17：00（予約有の場合、17：00以降でも可）
④ 問い合わせ先：072-684-6560（カウンセリング直通電話）　E-mail：hokekan@poh.osaka-med.ac.jp



JSHC Japan Society of Histochemistry and Cytochemistry Established 1959

OMC Osaka Medical College

日本組織細胞化学会主催

第37回 組織細胞化学講習会

組織細胞化学の挑戦 ―臨床応用研究への飛躍 ―

2012. 8/1(水)▶8/3(金) 大阪府高槻市

実行委員長　大槻　勝紀（大阪医科大学医学部生命科学講座解剖学教室）

■ 講習会　高槻現代劇場中ホール

1日目　8月1日(水)　9:00 受付開始

9:20　挨拶

A　染める！―免疫染色法の基礎と応用―

9:30〜12:15

免疫染色のための固定試料作製法：凍結技法の意義
大野　伸一（山梨大学）

基礎からの免疫染色術　―いかに確実に染め出すか―
鴨志田伸吾（神戸大学）

実験動物における免疫組織化学染色
川井　健司（実験動物中央研究所）

免疫組織化学多重染色法
鈴木　孝夫（昭和大学横浜市北部病院）

免疫染色の技術的工夫　―落とし穴とトラブルシューティング―
堤　寛（藤田保健衛生大学）

B　染める！―in situ hybridization の基礎と応用―

13:30〜15:30

In situ ハイブリダイゼーションの原理と基礎
遠藤　大輔（長崎大学）

誰でも出来るパラフィン切片を用いた高感度 ISH 法
佐藤　雄一（北里大学）

FISH と SKY：基礎と応用
谷脇　雅史（京都府立医科大学）

蛍光免疫染色法と FISH 法の同時解析法
中村　麻子（大阪医科大学）

C　挑戦する！―組織細胞化学の新しい領域；再生医療―

15:45〜17:25

未来の再生医療としての臓器置換再生医療の実現を目指して
―歯や毛包の器官再生をモデルとして―
辻　孝（東京理科大学）

細胞シートによる心筋再生医療
清水　達也（東京女子医科大学）

再生医療の現状と課題　―培養軟骨開発の経験から―
菅原　桂（株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング）

genetic lineage tracing（細胞系譜解析法）を用いた臓器形成・維持機構の解析
川口　義弥（京都大学iPS細胞研究所）

17:30　懇親会（高槻現代劇場レセプションホール）

2日目　8月2日(木)　9:30 開始

D　見る！―顕微鏡の基礎から最新のイメージング技術―

9:30〜11:30

バイオイメージングで知っておきたい顕微鏡の基礎
鈴木　健史（札幌医科大学）

カルシウムイメージング：蛍光プローブによる細胞内濃度の測定
中張　隆司（大阪医科大学）

最新の光イメージング技術のがん研究への応用
今村　健志（愛媛大学）

ImageJ を用いたデジタル画像解析の基礎
宮東　昭彦（香林大学）

E　見る！―電子顕微鏡の基礎と応用―

13:00〜15:00

電子顕微鏡の基礎と応用
伊藤　裕子（大阪医科大学）

免疫電子顕微鏡法の基礎と応用
松崎　利行（群馬大学）

超高圧電子顕微鏡を用いた生物試料観察の基礎と応用
小澤　一史（日本医科大学）

電子線トモグラフィーによる細胞小器官の 3D 解析
西野美都子（大阪大学）

F　解析する！―データを評価するための技術―

15:15〜16:45

病理診断におけるレーザーマイクロダイセクション法の応用
―主に細胞診検体を対象とした診断・治療に関する医療情報の獲得―
根本　則道（日本大学）

リアルタイム PCR の基礎と応用
臼神　博（ライフテクノロジーズジャパン株式会社）

遺伝子ノックアウトマウスの作製法
庫本　高志（京都大学）

■ 技術講習会（Wet Lab）　大阪医科大学キャンパス

3日目　8月3日(金)　9:30〜16:00

但し、開始時刻および終了時刻は各コースによって異なります

Aコース	簡便な凍結技法＜生体内＞―凍結置換固定法の免疫組織化学への応用	定員 10名
Bコース	免疫組織化学染色の基礎と実験動物組織への応用	定員 30名
Cコース	免疫組織化学染色の基礎とマイクロ波を利用した迅速染色法、アレイヤー装置を使用したアレイブロック作製の実際	定員 24名
Dコース	In Situ Hybridization法の基礎と自動前処理装置の活用	定員 10名
Eコース	in situ ハイブリダイゼーション法の基礎実践と新アプリケーションの紹介	定員 15名
Fコース	レーザーマイクロダイセクションにおけるサンプル調整のコツとアプリケーションの紹介：川本法サンプルのレーザーマイクロダイセクションへの適用	定員 15名
Gコース	川本法による未固定非脱灰凍結切片とパラフィン切片の作製	定員 10名
Hコース	蛍光顕微鏡基礎知識の習得―観察からデジタルカメラによるタイムラプス撮影まで	定員 12名
Iコース	初めてのウェスタンブロッティング	定員 10名
Jコース	基礎から学ぼう　ウェスタンブロッティング	定員 10名
Kコース	リアルタイムPCRでの遺伝子発現解析のコツとポイント	定員 12名
Lコース	病理切片を用いたがんのコンパニオンダイアグノスティックス	定員 16名

お問い合わせ　第37回 組織細胞化学講習会実行委員会事務局

大阪医科大学医学部生命科学講座解剖学教室　中村　麻子 ／ 中西　雅子（Wet Lab 担当）
〒569-8686　大阪府高槻市大学町2-7　TEL：072-684-7197　FAX：072-684-6511　E-mail：info_37kjshc@nacos.com

講習会の詳細、受講のお申し込みは、講習会ホームページをご覧ください。 http://www.osaka-med.ac.jp/deps/an1/jshc37/jshc37top.html

2012年度　講演・研修会予定表

月　日	曜日	時間	講演内容	講師		
5月11日	金	午前	低学年の子どもへのソーシャルスキル指導①	西岡有香		
5月12日	土	午後	読み書き障害の成人当事者に聞く	竹田契一	品川裕香	井上　智
5月13日	日	午後	最新情報で学ぶADHDと自閉症スペクトラム障害	竹田契一	玉井　浩	小野次朗
5月25日	金	午前	低学年の子どもへのソーシャルスキル指導②	西岡有香		
5月26日	土	終日	発達障害のアセスメント研修（WISC-Ⅳを中心に）	山田　充	栗本奈緒子	水田めくみ
5月26日	土	終日	姿勢が悪い、不器用、低緊張って何？	里見恵子	辻　薫	森田安徳
5月30日	水	午前	子どもの「見る」「聞く」力の理解とその指導	竹下　盛		
6月8日	金	午前	低学年の子どもへのソーシャルスキル指導③	西岡有香		
6月9日	土	午前	発達障害の子どもに見られる視覚能力の問題とその指導～基礎編	奥村智人		
6月9日	土	午後	読み書き算数の発達の基礎とは？	室橋春光		
6月10日	日	終日	「できた！」が聞きたい 早く見つけて素早く対応 ことば・数のつまずき	里見恵子	笘広みさき	
6月23日	土	終日	子どもの読み書き能力の理解と指導	高橋登・若宮英司・村井敏宏・西岡有香		
6月29日	金	午前	子どもの「読む」力「書く」力の理解とその指導	水田めくみ		
7月3日	火	午前	幼児期に経験する体の動きは学習や社会性の土台	芳本有里子		
7月14日	土	午前	発達障害の子どもに見られる視覚能力の問題とその指導～実践編（1）	奥村智人	中村明子	
7月14日	土	午後	パソコン、iPadなど様々な支援技術を使って学びを支える	近藤武夫		
8月4日	土	終日	発達障害のアセスメント研修（WISC-Ⅳを中心に）	山田　充	栗本奈緒子	水田めくみ
8月18日	土	午前	幼児・低学年の行動観察から得られる情報	西岡有香		
8月18日	土	午後	発達障害の子どもに見られる視覚能力の問題とその指導～実践編（2）	奥村智人	竹下　盛	
9月1日	土	終日	算数での子どもの誤り分析	山田　充	今村佐智子	栗本奈緒子
9月7日	金	午前	幼児期のソーシャルスキル指導①	西岡有香		
9月8日	土	午前	怒りのコントロール力を身につけよう	中尾繁樹		
9月8日	土	午後	発達に課題のある子どもへのクラスで教えるソーシャルスキル	西田和子	水田めくみ	栗本奈緒子
9月14日	金	午前	幼児期のソーシャルスキル指導②	西岡有香		
9月21日	金	午前	幼児期のソーシャルスキル指導③	西岡有香		
10月16日	火	午前	子どもが取り組む手を使う作業に大人はどう援助するか	芳本有里子		
10月27日	土	終日	子どもの読み書きの誤りからつまずきの背景を考える	村井敏宏	西岡有香	水田めくみ
11月2日	金	午前	高学年の子どもへのソーシャルスキル指導①	西岡有香		
11月4日	日	午後	ダウン症をはじめとする知的障害のある子どもへの早期療育とその成果	玉井　浩	玉井るか	栗本奈緒子
11月16日	金	午前	高学年の子どもへのソーシャルスキル指導②	西岡有香		
11月30日	金	午前	高学年の子どもへのソーシャルスキル指導③	西岡有香		
12月8日	土	終日	発達障害のアセスメント研修	山田 充	水田めくみ	栗本奈緒子
12月8日	土	午前	発達障害のある子どもと心身症	金　泰子		
12月8日	土	午後	発達障害のある子どものきょうだいへの関わり～家族支援	玉井邦夫		
12月9日	日	午前	発音のはっきりしない子、間違ってしまう子の指導	松尾育子		
12月9日	日	午後	健診でチェックすることばの発達	中川信子		
12月16日	日	終日	視機能ワークショップ	奥村智人	三浦朋子	茅野晶敬
1月18日	金	午前	幼児～低学年の子どもへのソーシャルスキル指導①	西岡有香		
1月19日	土	午後	特別支援教育で起こっている学校間格差、教員間格差はどうすれば縮められるのか	柘植雅義	高畑英樹	
1月19日	土	終日	視機能ワークショップ	奥村智人	三浦朋子	茅野晶敬
1月20日	日	午後	発達障害の子どもの絵から読みとる	郷間英世	森田安徳	
1月25日	金	午前	幼児～低学年の子どもへのソーシャルスキル指導②	西岡有香		
1月29日	火	午前	「数える」「比べる」～算数の学習に必要な基礎力とは～	栗本奈緒子		
2月8日	金	午前	幼児～低学年の子どもへのソーシャルスキル指導③	西岡有香		
2月9日	土	午後	読み書き障害の評価	若宮英司	小林マヤ	
2月11日	月祝	終日	読み書き障害の指導の実際	栗本奈緒子	水田めくみ	西岡有香
2月23日	土	午後	児童生徒の心身の不調の訴えをどうするか（起立性調節障害の理解を含めて）	田中英高		
3月2日	土	午後	ワーキングメモリの少ない子どもへの学習支援	湯沢正通		
3月17日	日	午後	二次障害への対応	岩坂英巳	竹田契一	

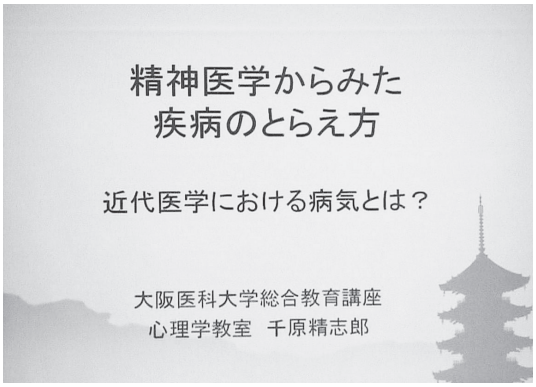
http://www.osaka-med.ac.jp/deps/ldc/index.html　　大阪医科大学LDセンター　TEL072-684-6236

歴史資料館

■歴史資料館市民講座

第５回 歴史資料館市民講座が、下記の通り開催されました。

日　時：平成24年３月３日（土）14：00～15：00
場　所：別館３階　講義室
演　題：精神医学からみた疾病のとらえ方
　　―近代医学ではどんなものを病気というのか？―
講　師：心理学　教授　千原 精志郎
参加者：約80名



■第14回　高槻ジャズストリートの演奏会場として利用されました

高槻市では、平成11年より毎年ゴールデンウィークの２日間にわたり、市内の公共施設や駅前広場など約45会場でジャズの演奏が行われる“高槻JAZZ STREET”が開催されています。

本年も、高槻ジャズストリート実行委員会と高槻市より会場の一つとして本学別館（歴史資料館）を利用したい旨の依頼があり、下記のとおり開催されました。

日　時：平成24年５月３日（木・祝）、４日（金・祝）
　　13：00～17：00（両日共）
場　所：別館３階　講義室
入場料：無料
来場者：合計810名

◆大阪医科大学俳句会（二一・三・四月）

幼稚舎のしづまりかへる夕櫻　山崎隆司

二兒用に二兒や彌生の乳母車　同

海老入れて七福巻や福は内　中川一成

カステラの甘き香りや茂吉の忌　同

靴で靴鳴らす踊や春の泥　吉田孝江

浅酌てふゆかしき言葉花の下　同

ささらぎや菓舗は淡紅淡みどり　飯塚久子

豆撒やお多福独り化粧部屋　同

公魚や空より白き余呉の湖　宮脇芳美

油祖像に桜一枝をのべにけり　同

燕反転旅の便りは片便　寺田千代子

若竹煮供へ仏間に亡父と酌む　同

巻寿司の緑は濃ゆしはうれんさう　羽根美恵子

バス停に残す町の名はこべ草　谷口文子

征服者となるまで春の泥あそび　同

投句のお誘い

一般の方も投句（何句でも）して下されば、
当句会で会員の出句と同じように選句します。
入選句は当欄に掲載します。

宛先は
〒569-8686　高槻市大学町２-７
大阪医科大学
俳句会

皆様の参加をお待ちしております。

小児科外来がリニューアルされました。
狭かった診察室や待合いを広く、明るくしました。
受診する子どもたちが少しでも笑顔を見せてくれるように、内装にも工夫をほどこしました。

病院ボランティア活動のご紹介

患者さま図書コーナーは、各病棟のデイルーム18か所と、７号館ラウンジ、外来化学療法センター待合室、手術患者家族控室にあります。患者さまや教職員からの寄贈本は9,017冊（平成24年３月末）となりました。病院ボランティアである『ふれあい』メンバーが、月１回図書の入替を行います。

『ふれあい』メンバーの図書担当者は総勢16名。患者さまの憩いの場づくりにと、メンバー全員張り切って活動してくださっています。エプロン姿を見られたらお声掛けください。

表紙絵：クサイチゴ
我が家の近くの山道に、４月中頃、葉は３葉で、茎には白い軟毛があり、ところどころに鋭い棘のある径２～３㎝の白い５弁の花が咲く野草が群生している。茂みにわけいって摘もうとして、いつも痛い思いをする。中央には、緑色の球状のふくらみ（雌蕊）があり、それを包むように、白色の多数の雄蕊がみられる。やがて、花弁がおちて、熟せば赤色の甘い果実（イチゴ）となる。いつも「食べられるのかな」と思いながら、食べたことはないが、散歩中に犬に食べさせている光景をみるので、食べられるのであろう。

名誉教授　冨士原　彰

個人情報の取扱について：

平成17年４月１日から個人情報保護法が施行されました。
これに伴い本学では、学報の発送にかかる個人情報につきましては、個人情報保護法を遵守し、適切な管理を行っております。
なお、収集・管理する個人情報につきましては、発送の目的以外に使用することはありません。
学報に関する個人情報についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

大阪医科大学　総合企画部　学報編集担当係　電話　072－683－1221㈹
E-mail：gakuho@art.osaka-med.ac.jp

大阪医科大学学報　第92号
発行年月　平成24年５月
発　　行　学校法人　大阪医科大学
編集・発行　総合企画部
印　　刷　大日本印刷株式会社
大阪医科大学ホームページ
http://www.osaka-med.ac.jp/

大阪医科大学学報

第92号
インターネット版
平成24年５月

クサイチゴ

◆目　次◆

看護専門学校閉校によせて…… 2
平成24年度入学宣誓式…… 4
病院長就任挨拶…… 7
定年退職のご挨拶…… 8
受賞等について…… 10
学位記授与式…… 11
平成24年度科学研究費助成事業交付内定…… 14
研究助成金等について…… 17
平成24年度事業計画と予算の概要…… 18
卒後臨床研修センター…… 29
看護学部…… 30
病院看護部…… 31
中山国際医学医療交流センター…… 32
学内行事…… 38
市民公開講座…… 42
入学試験・国家試験状況・行事日程…… 43
寄付金報告…… 45
主要会議報告…… 47
大学安全対策室…… 52
医療安全対策室…… 53
感染対策室…… 56
保健管理室からのお知らせ…… 57
組織細胞化学講習会…… 60
平成24年度LDセンター活動予定 …… 61
歴史資料館…… 62
俳句…… 63